

## 第2次

# 香芝市生涯学習推進基本計画（案）

〈キャッチフレーズ〉

平成27年3月

香 芝 市

# — 目 次 —

## ◇香芝市生涯学習推進基本計画の基本構成

第1章	生涯学習推進基本計画の趣旨	1
1	計画の見直し背景	2
2	計画の位置づけ	2
3	計画の期間	3
4	計画策定の体制	3～4
第2章	現状と課題	5
1	位置・地勢	6
2	人口の動向	6～7
3	第1次基本計画の成果と課題	8～10
4	市民意識調査結果	11～21
5	計画策定に向けた社会教育関係団体からの提言	22～23
6	市民ニーズの動向	23～24
7	第2次基本計画策定に向けての課題	25～27
第3章	計画の基本的方向	28
1	香芝市がめざす生涯学習像	29
	第2次基本計画づくりの概念図	30
2	第2次基本計画の基本理念	32
	政策体系図	33
3	第2次基本計画の基本目標	34～36
第4章	分野別基本計画	37
1	ライフステージに対応する学習機会の提供と成果を 活かす環境づくり	38～48
2	子どもと大人が育ちあう、子育てしやすい環境づくり	49～52
3	学びの情報をだれもが得られる環境づくり	53～57
4	地域みんなで学びあう（協育による）生涯学習のまちづくり	58～63
5	市民と行政が進める生涯学習の体制づくり	64～66
6	重点施策	67～69
第5章	基本計画推進に向けて	70
1	基本計画の推進体制	71～75

## ◇資 料 編

- 第2次香芝市生涯学習推進基本計画策定経過
- 第2次香芝市生涯学習推進基本計画策定委員会名簿
- 第2次香芝市生涯学習推進基本計画策定作業部会（ワーキング部会）名簿
- 策定委員会への諮問
- 策定委員会からの答申
- 国等の生涯学習に関する変遷
- 用語説明（50音別）

# 第1章

## 生涯学習推進基本 計画の趣旨

# 1 計画の見直し背景

生涯学習計画は、平成2年6月施行の「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」（以下「生涯学習振興法」という。）の成立した前後から1990年代半ばにかけて、多くの自治体で策定されました。このような時期に策定された「香芝市生涯学習推進基本計画」（平成13年）は、生涯学習の理念に基づき、それを地域に具現化するという性格の計画でした。

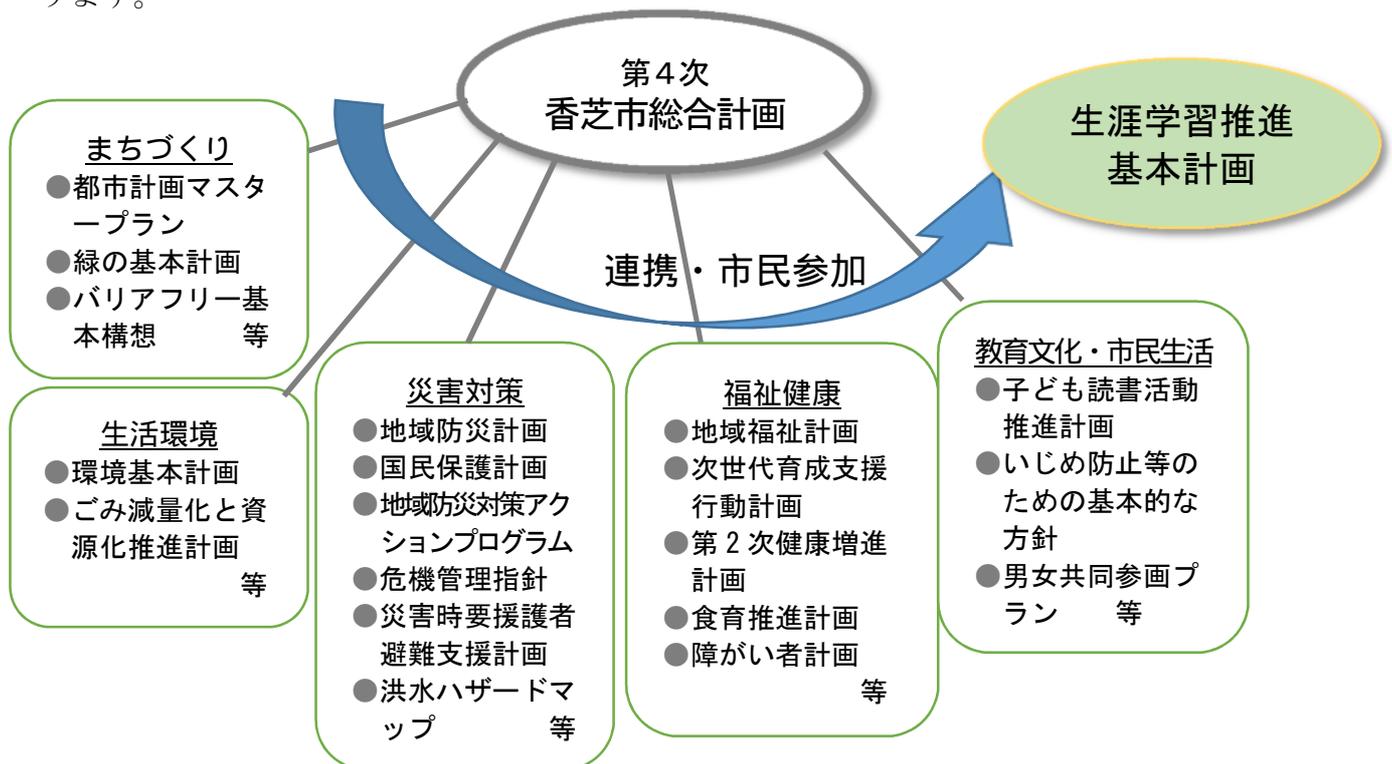
その後、10年という長期計画の期間を終了し、次期の新たな生涯学習計画が必要となっています。この間の香芝市行政における生涯学習の位置づけの相対的変化もあり、現実的に地域の発展にとって意味のある「役に立つ」生涯学習が求められています。地域における生涯学習活動においても、当初の「自己実現」や「仲間づくり」を重視したものから、学んだことを地域に活かすこと、地域づくりにかかわる学習が重視されています。

そのため、従来のような生涯学習活動を超えて、地域課題に取り組み、実際に地域づくり活動を進めていくことができるような「地域をつくる学び」の展開が必要となっており、これらの考え方をもちいた生涯学習計画をめざしていくことが必要となっています。

# 2 計画の位置づけ

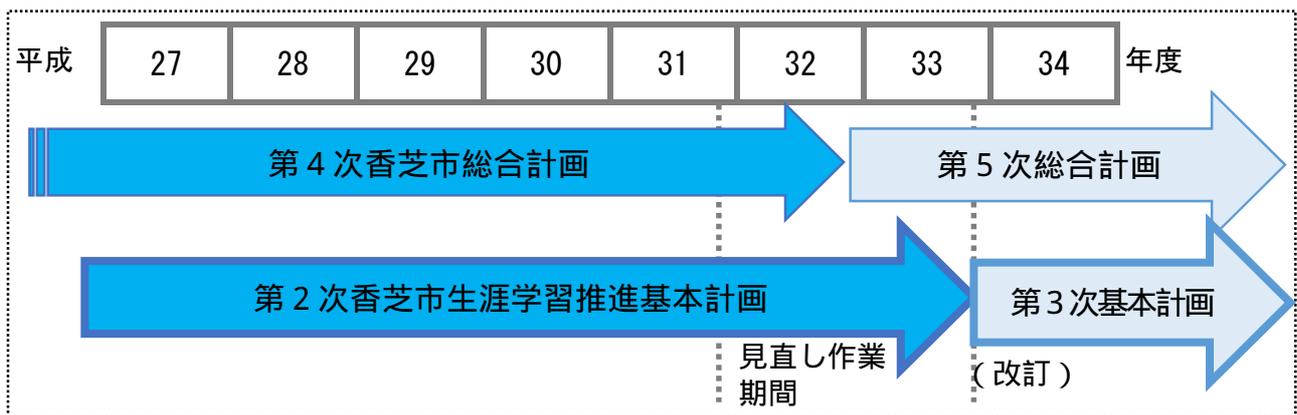
これからの生涯学習推進基本計画は、「地域で人々が心豊かに暮らすことができる環境づくり」をめざすものであるといえます。

このため、教育政策のみならず、まちづくり各分野との連携のもと、総合的な市民の暮らしの環境を向上させる視点が必要となってきます。その視点を図式化すると次のとおりとなります。



### 3 計画の期間

第2次基本計画の計画期間は、平成27年度（2015年度）から平成33年度（2021年度）までの7年間とします。市の最上位計画である「第4次香芝市総合計画」の計画期間（目標年度：平成32年度）を重視し、次期、第5次の総合計画を十分踏まえて、今回策定する第2次基本計画の見直しを行っていきます。

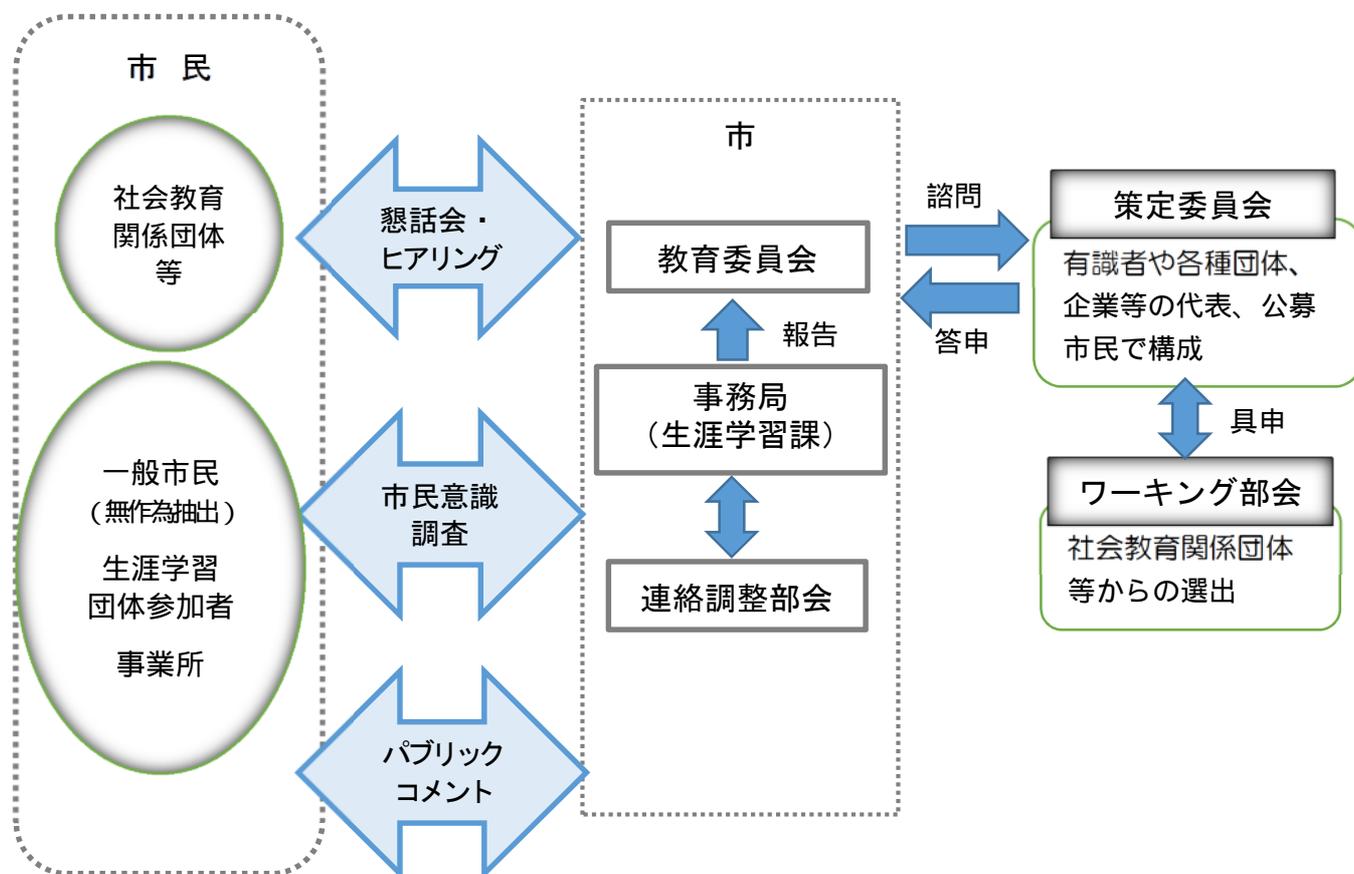


### 4 計画策定の体制

第2次基本計画の策定を進めるにあたっては、「市民参加」が大前提であることから、市民意識調査を実施するとともに、社会教育関係団体との懇話会を開催し、計画づくりに向けた課題や提言をいただきました。

計画策定に関しては、有識者や各種団体、企業等の代表、公募市民で構成する「策定委員会」において審議を行ってきました。さらに、基本計画をより実践に結びつけるため、日頃生涯学習に関連する活動をされている方から選出した「ワーキング部会」を、「策定委員会」の作業部会として設け、より具体的な提言等を受け、これらを総合して「策定委員会」において審議・答申を経て、第2次基本計画を策定することとします。

## ■第2次基本計画策定における組織体系



# 第2章

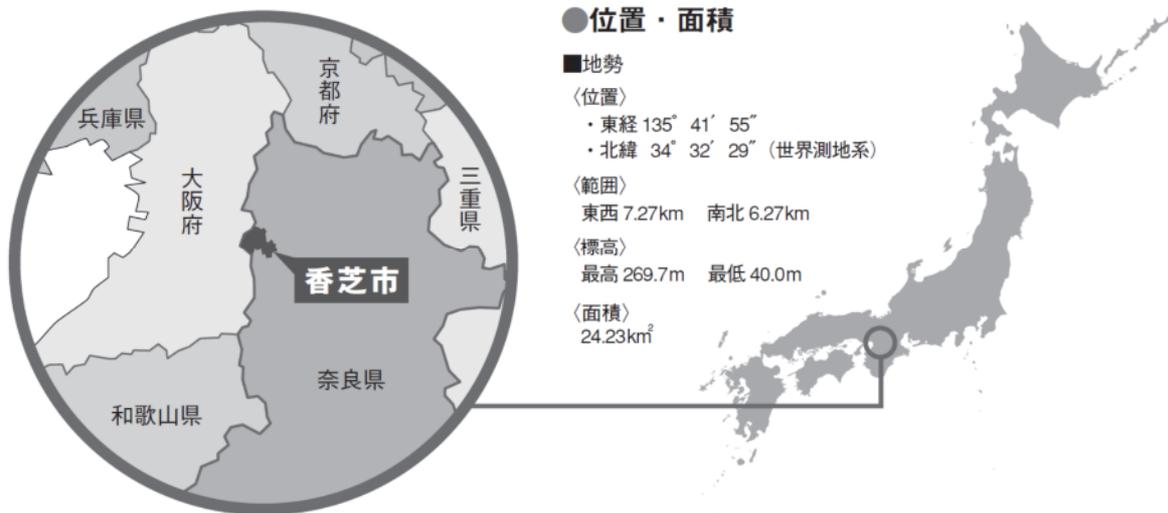
## 現状と課題

## 1 位置・地勢

香芝市は、奈良県の北西部にあり、金剛生駒紀泉国定公園を挟んで大阪府に接しています。市域は、東西 7.27km、南北 6.27km にわたり、面積は 24.23 km<sup>2</sup>です。

道路網では大阪市から三重県津市を結ぶ国道 165 号、和歌山県新宮市から大阪府枚方市を結ぶ国道 168 号、及び大阪府松原市から名古屋方面につながる西名阪自動車道の香芝インターチェンジを有しています。

鉄道網では JR 和歌山線、近鉄大阪線及び近鉄南大阪線が市の中心部を縦横に走り、8 つの駅を有し、大阪市内への交通が至便なところに位置しています。



出典：香芝市市勢要覧統計資料編

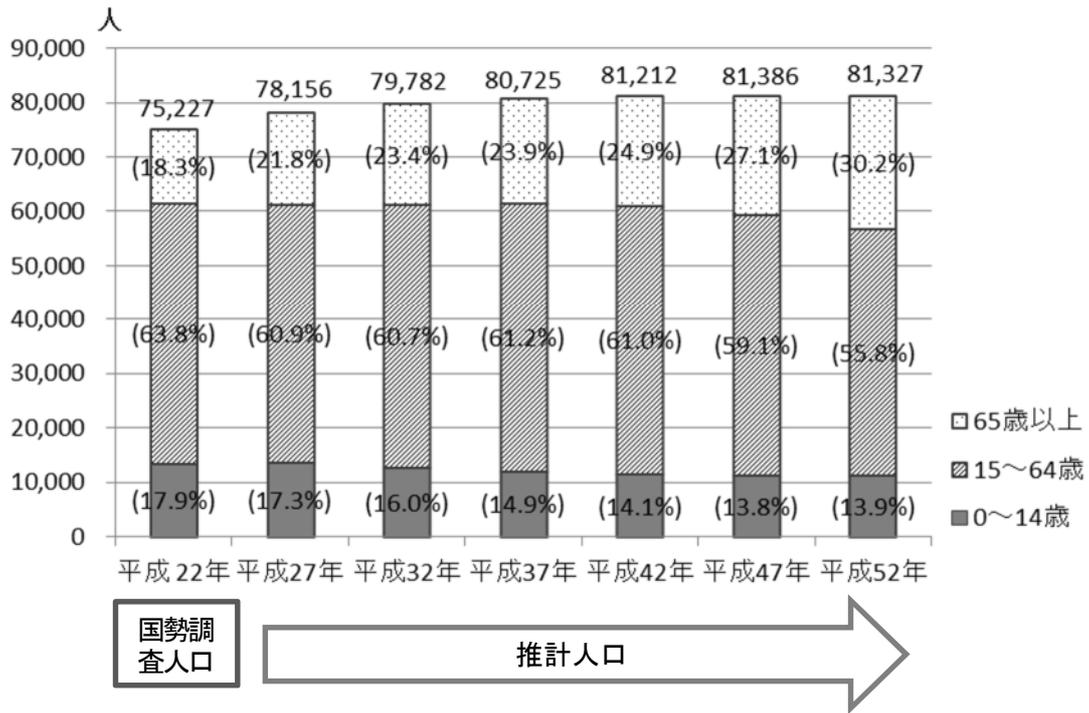
## 2 人口の動向

全国的に少子高齢化が進み、人口減少が本格化する中で、香芝市は、人口増加が一貫して続き、年齢構成の若いまちです。昼間、大阪方面を中心とした地域で働き、夜間に本市に帰るといふ人が多く住んでいる傾向があります。

しかし、かつての急激な人口増加から比較すると、人口増加率は鈍りつつあります。また市内には、高齢化が進んでいる地域もあります。

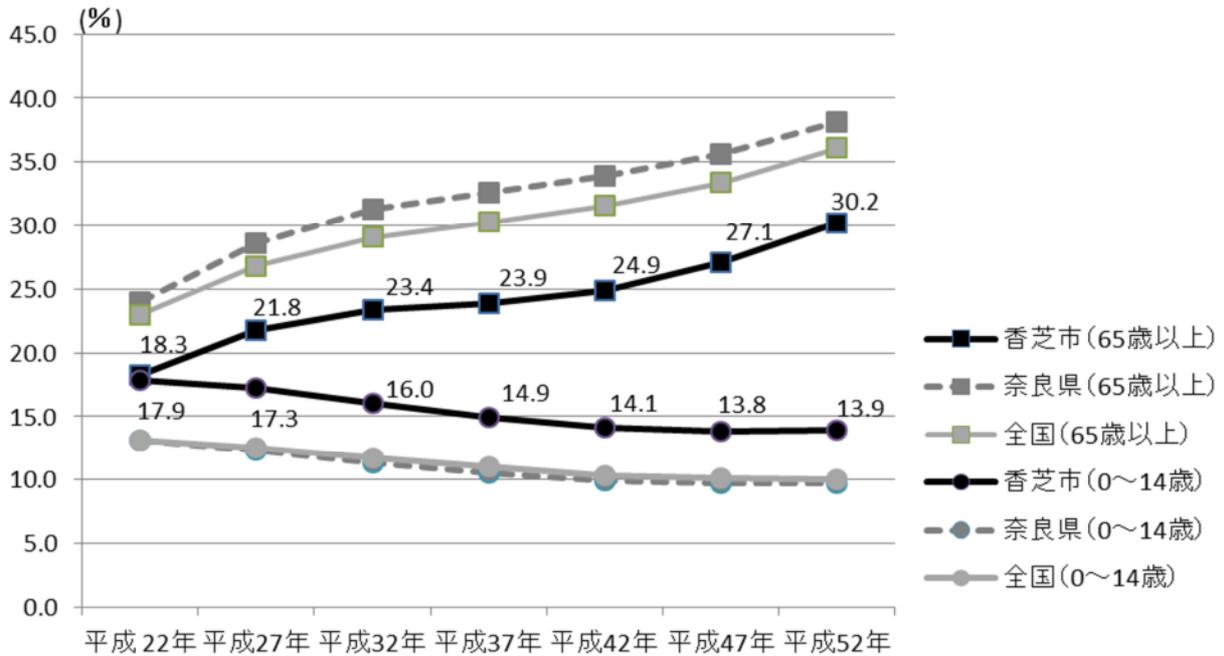
本市は、全国平均より高齢者人口比率（高齢化率）は低く、年少者人口比率が高い、若いまちですが、今後は高齢化への進展が予測され、これまでのような人口増加が続いていくとは限らないと考えられます。このため、将来の人口減少も見据えたうえで、本計画を策定していく必要があります。

### ■香芝市の推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」  
平成22（2010）年の国勢調査を基に将来人口を推計したもの

### ■高齢者人口（65歳以上）比率と年少者人口（0～14歳）比率の推計



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

### 3 第1次基本計画の成果と課題

第1次香芝市生涯学習推進基本計画の成果と課題として、次のようなことがあげられます。

#### ①生涯学習推進の体制づくり

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全庁的な生涯学習推進体制としての組織化までにはいたっていません。</li> <li>・広域連携では、4市1町の葛城広域行政事務組合において、様々なイベント等を通して文化・歴史の学習機会に活かしています。</li> <li>・勤労者の生涯学習の振興には、企業等の理解と協力が不可欠ですが、現状では企業との連携に取り組むまでにはいたっていません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の推進のために、行政の縦割りを越えた全庁的な組織体制を構築していかなければなりません。</li> <li>・リカレント教育やボランティア休暇の導入など、勤労者が生涯学習をしやすい環境づくりに向けた企業等との連携、理解を求める取り組みが必要です。</li> </ul>

#### ②生涯学習情報システムとネットワーク化

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館が生涯学習活動の拠点となっており、学習情報の提供や相談機能を担っています。</li> <li>・「e 古都なら」奈良電子自治体共同運営システムでは、奈良県と県内市町村でのインターネットを利用してパソコンや携帯電話から各種申請、届出、講座、イベント申し込みができるサービスを提供しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館が生涯学習活動の拠点として、学習情報の提供や相談などの生涯学習センター機能を担い、民間学習機関等との連携を図ることが必要になります。</li> </ul>

#### ③学習施設・機会の拡充

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生涯学習センター」の整備にはいたっていませんが、中央公民館が生涯学習活動の拠点となり、学習情報の提供や相談機能を担っています。</li> <li>・市民の学習ニーズが高まる中、公民館を利用する人は年々増加しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習活動の拠点施設として、機能する中央公民館の役割はますます重要になってきます。</li> <li>・中央公民館の施設面での充実を図りながら、学習環境の整備を図っていくことが重要です。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪樟蔭女子大学・畿央大学・帝塚山大学との連携協力に関する協定を締結し、事業を展開することにより大学の知識と技術力が生かされています。</li> <li>・旧石器文化を紹介する「二上山博物館」は、平成26年10月群馬県「みどり市岩宿博物館」と連携協力協定を締結し、展示・教育普及活動などでの交流を図っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の公民館事業全体の内容等を検討して、社会変化に対応した各種講座や事業等の充実を図る必要があります。</li> <li>・市民の多様化・高度化するニーズに応え、生涯学習の質を高め、幅を広げていくために、大学との連携協力のほか、民間学習機関との連携強化を図る必要があります。</li> </ul>
--	--

#### ④学習成果の適切な評価と成果を活かせる機会や場の確保

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術展覧会などは、充実した芸術の発表の場となっています。</li> <li>・市制20周年を記念して「香芝検定」を実行委員会で立ち上げ、毎年開催されています。これは歴史資源の掘り起しにつながり、検定合格者には認定証を交付するなど、歴史学習に大きな成果をあげています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の意欲が高められ、次のステップにつながるよう、学習成果として各種学級・講座等における認定書や修了証の発行など、学習成果を評価する制度の創設が必要です。</li> </ul>

#### ⑤生涯学習の担い手づくり

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・二上山博物館ボランティアは、継続的な協働のパートナーとして活動を支援し、活動範囲を拡大することで、参加・協働型の博物館運営を行っています。歴史・文化活動や市民図書館事業におけるボランティア活動の場が充実し、一定の成果をあげています。</li> <li>・ボランティアセンターでは、ボランティア養成講座を実施しており、市ボランティアセンターへの登録団体数は25年度で92団体、また個人、団体登録者数が同年で1,900人となっています。</li> <li>・生涯学習人材バンク制度を設け、様々な分野の人材が登録されています。しかし活動できる場が少ないことから実践にな</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習リーダー等指導者やボランティアの養成、人材活用の拡充を図る必要があります。学習成果をボランティア活動に活かせるよう、各種講座のフォローを充実させる必要があります。</li> <li>・ボランティア養成講座とともに、活動できる場の提供に力を注ぐことが必要です。</li> <li>・福祉、環境保全、国際協力など各分野の担当課や関係団体と連携し、ボランティア活動の場づくりを進める必要があります。様々なボランティアに参加してもらえるよう、事業ごとの受け皿づくりを工夫していくこ</li> </ul>

<p>かなか結びつかない現状があり、登録者は年々減少している状況（平成26年12月現在、登録者数21人）です。</p>	<p>とが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各分野でのリーダー養成や指導者の発掘について「人材バンク」制度を有効に活用できるシステムについて、現行の登録制度を根本的に見直す必要があります。</li> </ul>
---	---

## ⑥市民参加の推進

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動の成果を発表する機会として、毎年「公民館まつり」を実施しています。企画運営は、学習者自身で構成する実行委員会による、自立した運営となっています。</li> <li>「成人式」について、新成人自ら実行委員会形式をとり式典の企画、運営を進めています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参画と市民協働による生涯学習の推進が強く求められています。生涯学習の成果を活かし、地域の課題に行政と市民が一体となって取り組む協働のまちづくりを進めていく必要があります。</li> </ul>

## ⑦文化振興・イベントの推進

取組みと成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>ふれあいフェスタ及び子どもフェスティバル事業など、市民が参加できるイベントを開催しています。</li> <li>市民による実行委員会により、冬の名物イベント「冬彩」が実施されています。</li> <li>市民の自主的な文化、芸術活動の成果を発表する機会として美術展覧会（絵画・書芸・写真の3部門）を実施しています。年々出品数、展覧会への来場者数が増加しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参加の実行委員会による企画運営イベントなど、市民参加型の文化イベントの企画・実施を積極的に推進する必要があります。</li> </ul>

## 4 市民意識調査結果

### (1) 市民意識調査の概要

第2次基本計画策定に向けて、市民の生涯学習への取り組み実態と意向を把握することを目的として、一般市民へのアンケート調査、および生涯学習団体に参加して活動している市民へのアンケート調査を、平成26年8月に実施しました。

また、香芝市内に立地する事業所について、従業員の生涯学習活動に対する支援の実態や今後の取り組み意向を把握することを目的として、市内事業所へのアンケート調査も同様に実施しました。

■生涯学習に関する市民アンケートの概要

調査	調査対象	配布数	回収数 (回収率)	有効数
一般市民 アンケート調査	住民基本台帳より無作為に抽出した、16歳以上の市民	1,400	613 (43.8%)	612
生涯学習団体 アンケート調査	市内の公共施設等で活動されている生涯学習団体の活動参加者	500	355 (71.0%)	355
事業所 アンケート調査	香芝市内に本社がある、従業員10名以上の事業所	100	55 (55.0%)	55

### (2) 市民意識調査結果の主な内容

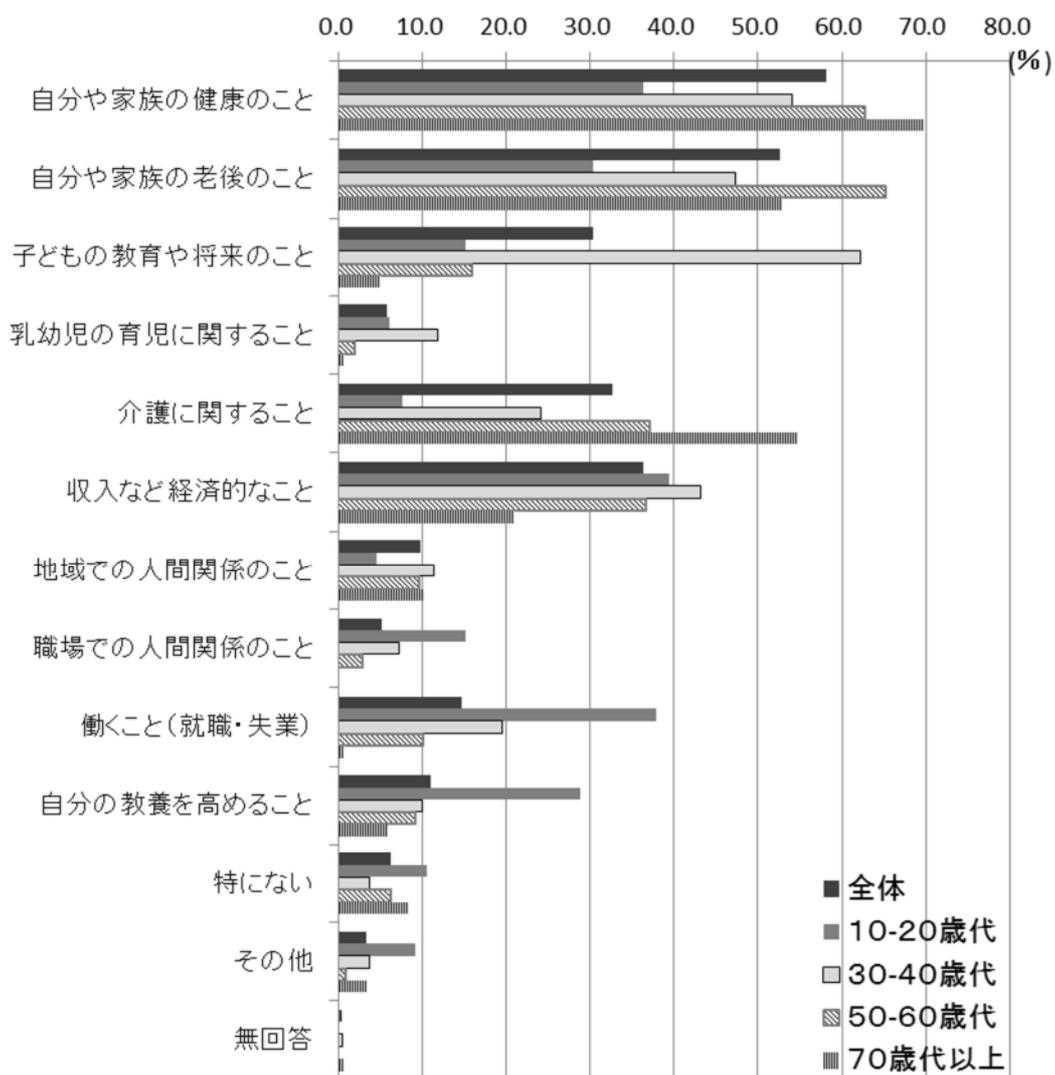
一般市民アンケート調査、生涯学習団体アンケート調査、事業所アンケート調査の結果から、主な内容をまとめました。

- 健康や老後のことに不安を感じている人が多い
- 生涯学習に関する活動をしている・したいと思う人は5割弱
- スポーツ・レクリエーション活動をしていない人は4割以上
- 生涯学習は、人生をより豊かにし、健康の維持・増進に役立っている
- 生涯学習の成果を、自身の資質の向上のほか、地域づくりや社会福祉活動に役立てたい
- 生涯学習の情報源として行政からの情報提供の役割が大きい
- 生涯学習の情報提供や活動に関する相談支援へのニーズが大きい
- 地域活動に参加しにくいと感じられており、情報に接することが課題
- 「まちの安全や住みやすさ」が地域の課題
- 会社としての社会貢献活動への取り組み意向は高い
- 市の取り組みとして「中核的な公共施設や体育施設の整備・充実」と「生涯学習に対する情報提供」の重要度が高い
- 今後市が力を入れるべきことは「気軽に参加できるような講座や教室」「市民のニーズや満足度の把握と反映」「生涯学習に関する情報を得やすくすること」

●健康や老後のことに不安を感じている人が多い

日常生活で悩みや不安を感じていることとして、「自分や家族の健康のこと」、「自分や家族の老後のこと」を半数の人があげており、年代が上がるほど多くなる傾向が見られます。子育て世代の30-40歳代では「子どもの教育や将来のこと」が特に多くなっています。

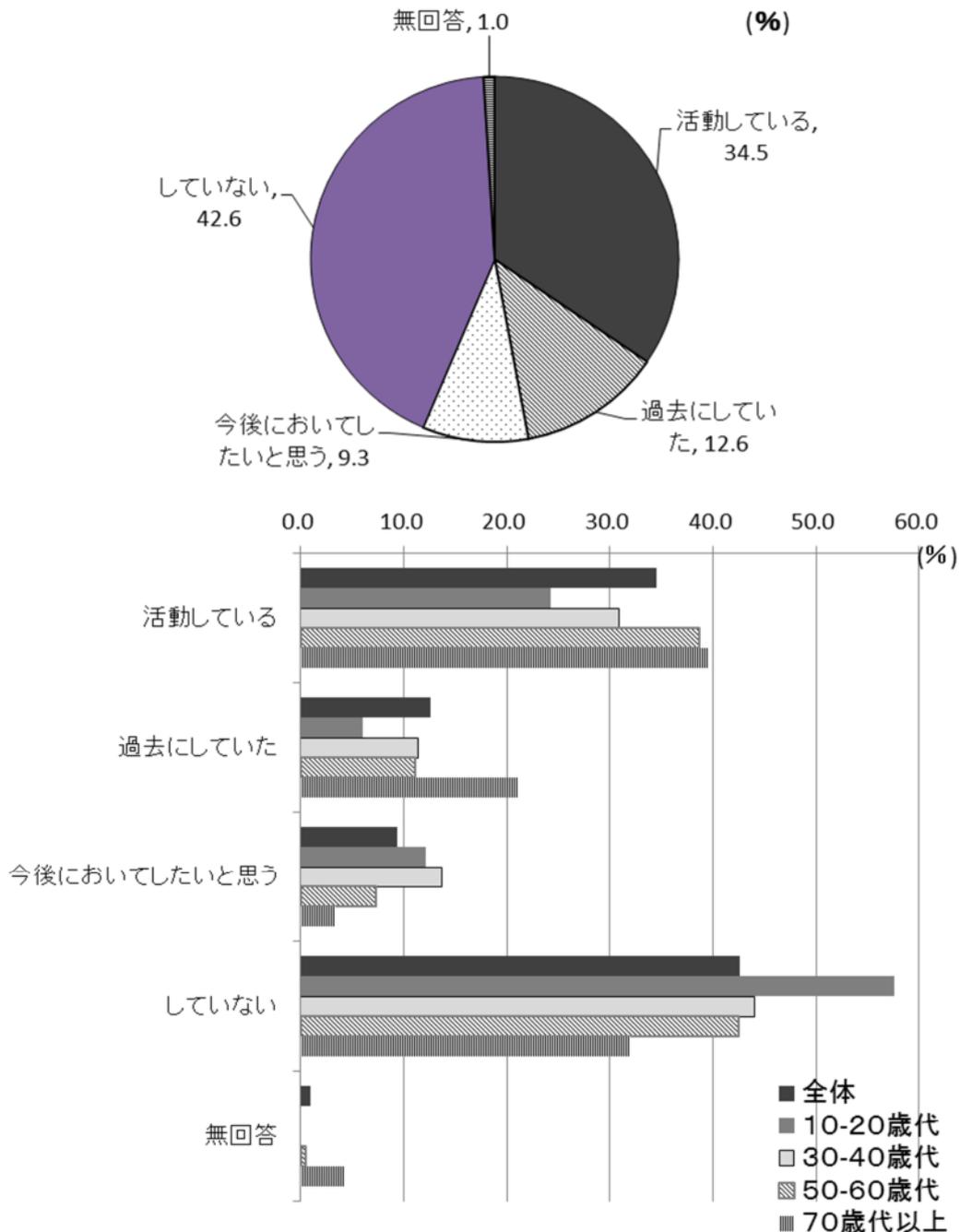
■日常生活で悩みや不安を感じていること（一般市民アンケート）



●生涯学習に関する活動をしている・したいと思う人は5割弱

生涯学習に関する「活動をしている(いた)」と「今後においてしたいと思う」と答えた人を合わせると50%を上まわり、市民の生涯学習に関する意識については高いといえます。しかし、実際には「していない」人が40%以上を占めています。生涯学習に関する活動をしている(いた)人は女性の方が多い傾向があります。10-20歳代、30-40歳代は生涯学習に関する活動をしていない人が多いものの、今後においてしたいという意向は持っていることがうかがわれます。これらの人を実際の活動に結び付けていくことが、今後の課題です。

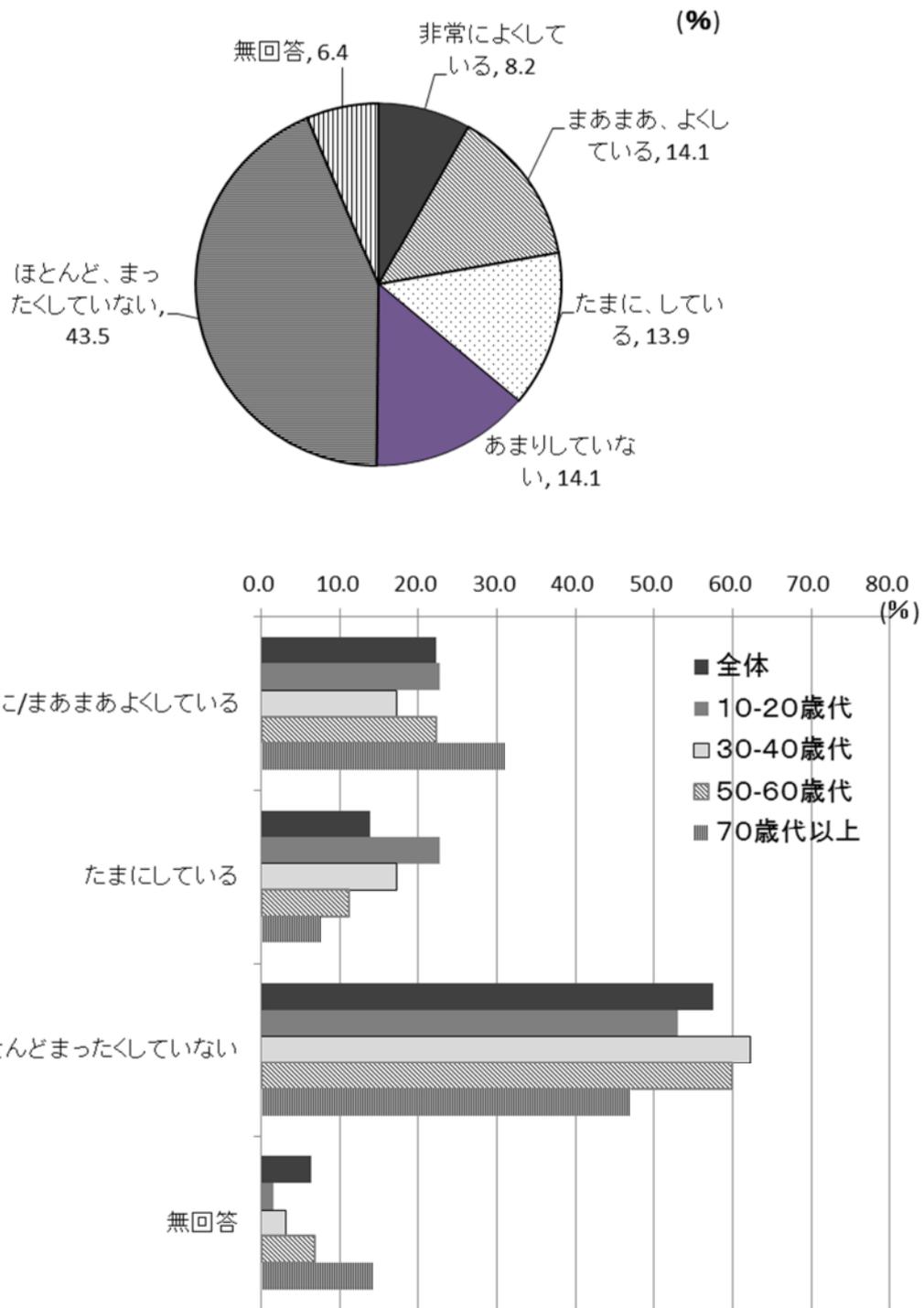
■生涯学習に関する活動状況（一般市民アンケート）



●スポーツ・レクリエーション活動をしていない人は4割以上

スポーツ・レクリエーション活動を、「ほとんど、まったくしていない」が4割以上で最も多く、「あまりしていない」を合わせると6割近くになります。スポーツ・レクリエーション活動では、活動をしていない人には女性が多く、年代別では30-40歳代、50-60歳代で活動をしていない人が多くなっています。

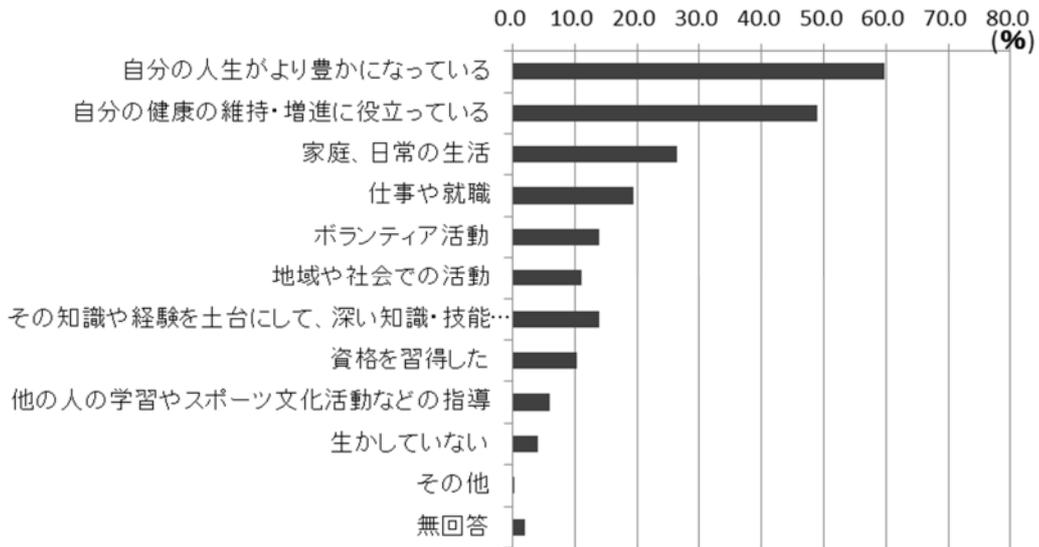
■スポーツ・レクリエーション活動状況（一般市民アンケート）



●生涯学習は、人生をより豊かにし、健康の維持・増進に役立っている

生涯学習活動をしている人が生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように活かしているかは、「自分の人生がより豊かになっている」が最も多く、次いで「自分の健康の維持・増進に役立っている」が多くなっています。

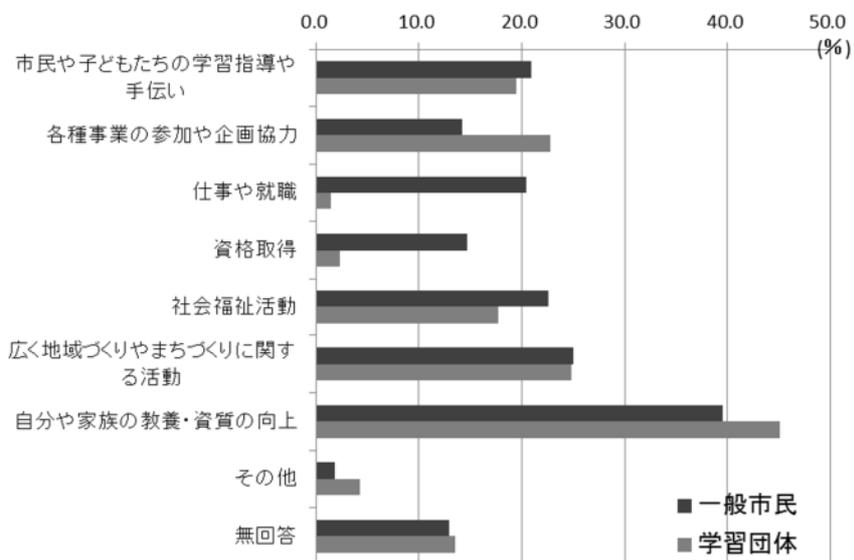
■生涯学習の成果をどのように活かしているか（一般市民アンケート）



●生涯学習の成果を、自身の資質の向上のほか、地域づくりや社会福祉活動に役立てたい

生涯学習で学んだことをどのように役立てたいかの意向については、「自分や家族の教養・資質の向上」が4割弱で最も多いものの、「広く地域づくりやまちづくりに関する活動」、「社会福祉活動」、「市民や子どもたちの学習指導や手伝い」がそれぞれ2割以上で、地域づくりや社会福祉活動に生涯学習で学んだことを役立てたいという意向がみられます。生涯学習団体アンケートでは、「各種事業（講座、展示会、イベントなど）の参加や企画協力」の割合が大きく、学習成果をさらなる活動につなげていく意向がみられます。

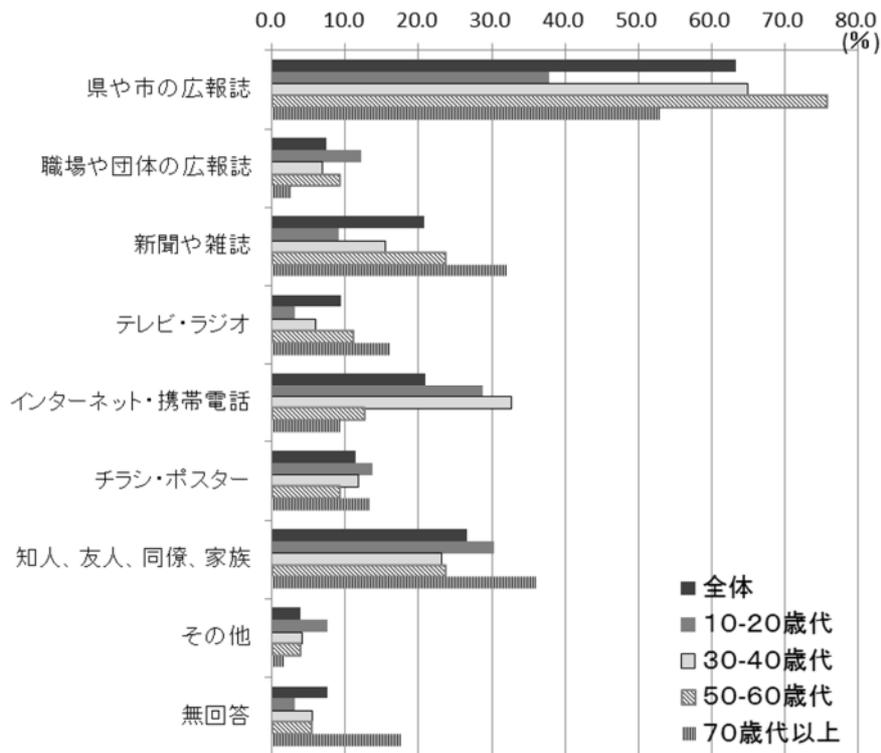
■生涯学習の成果をどのように役立てたいか（一般市民アンケート・学習団体アンケート）



●生涯学習の情報源として行政からの情報提供の役割が大きい

生涯学習の情報源は、「県や市の広報誌」が6割強で最も多く、行政からの情報提供の役割が大きくなっています。次いで「知人、友人、同僚、家族」、「新聞や雑誌」、「インターネット・携帯電話」と続いています。新聞・雑誌など従来からの情報源と合わせて、10～40歳代ではインターネット・携帯電話も情報源として利用されています。

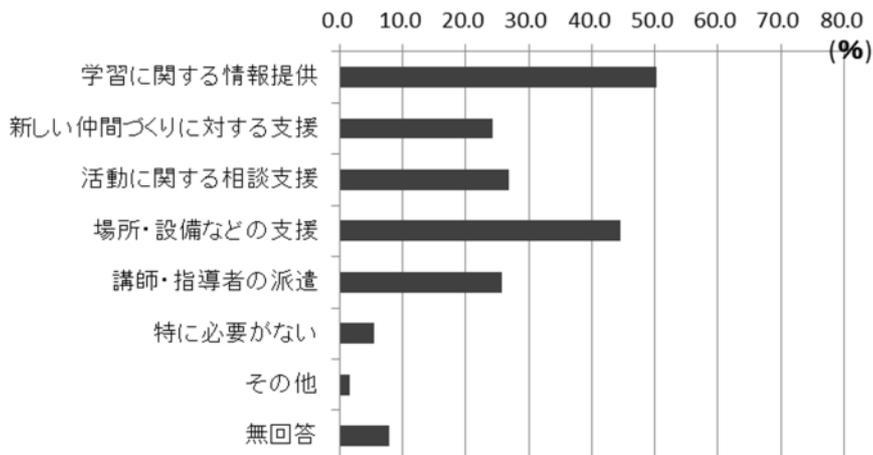
■生涯学習の情報をどこから得ているか（一般市民アンケート）



●生涯学習の情報提供や活動に関する相談支援へのニーズが大きい

生涯学習をするために、どのような支援があるとよいかは、「学習に関する情報提供」が最も多く、次いで「場所・設備などの支援」、「活動に関する相談支援」、「講師・指導者の派遣」と続いています。情報提供や活動に関する相談支援へのニーズが大きいといえます。

■生涯学習への支援（一般市民アンケート）

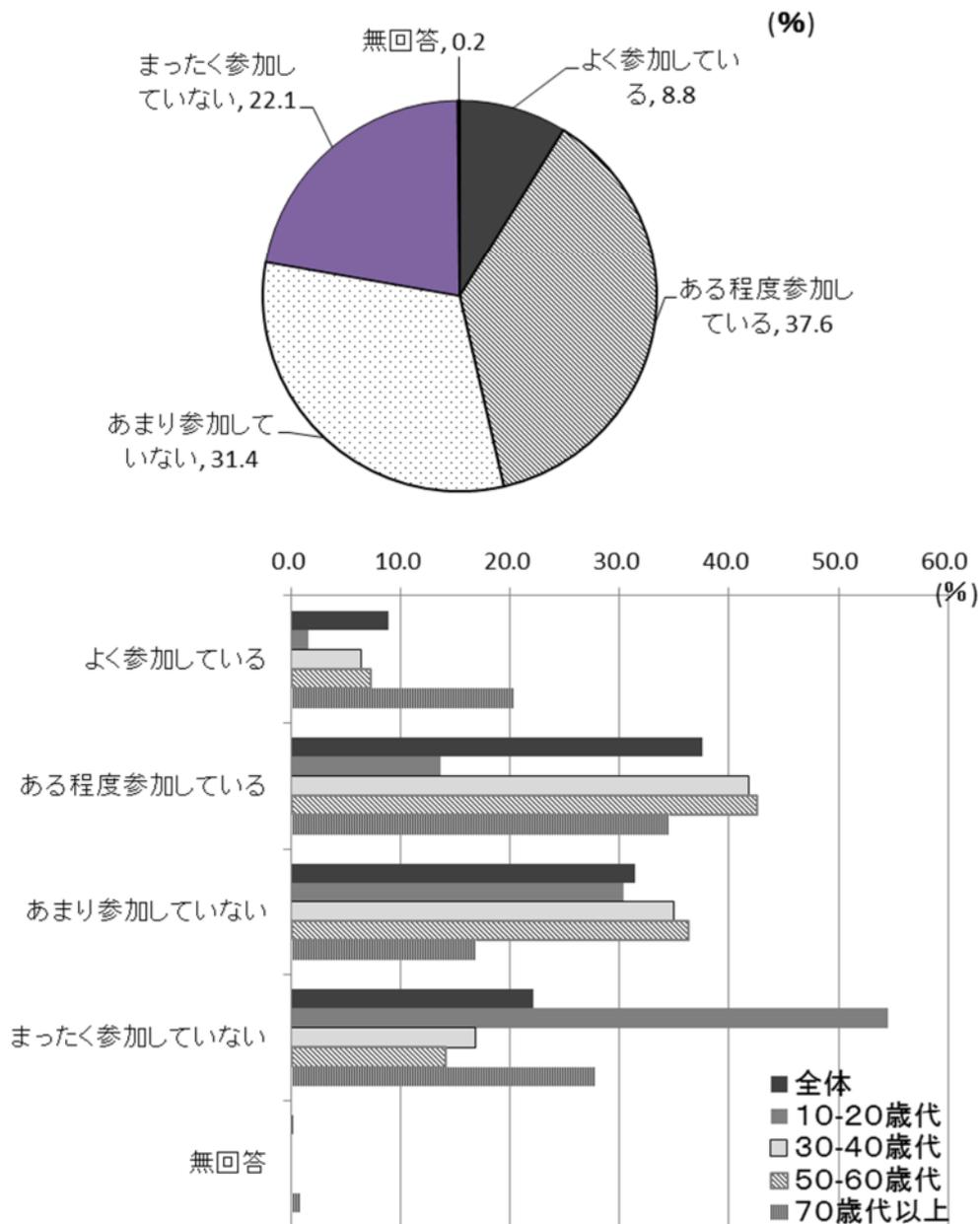


●地域活動に参加しにくいと感じられており、情報に接することが課題

地域の行事、地域活動等への参加状況は、「よく参加している」、「ある程度参加している」を合わせた、参加している人は5割を下まわっており、「まったく参加していない」が2割を超えています。

男女別でみると地域活動には、女性が比較的好く参加しています。年代別では、50-60歳代、30-40歳代はある程度参加しており、70歳代以上ではよく参加している層と全く参加していない層に分かれています。10-20歳代の地域活動への参加が特に少なくなっていることは課題といえます。

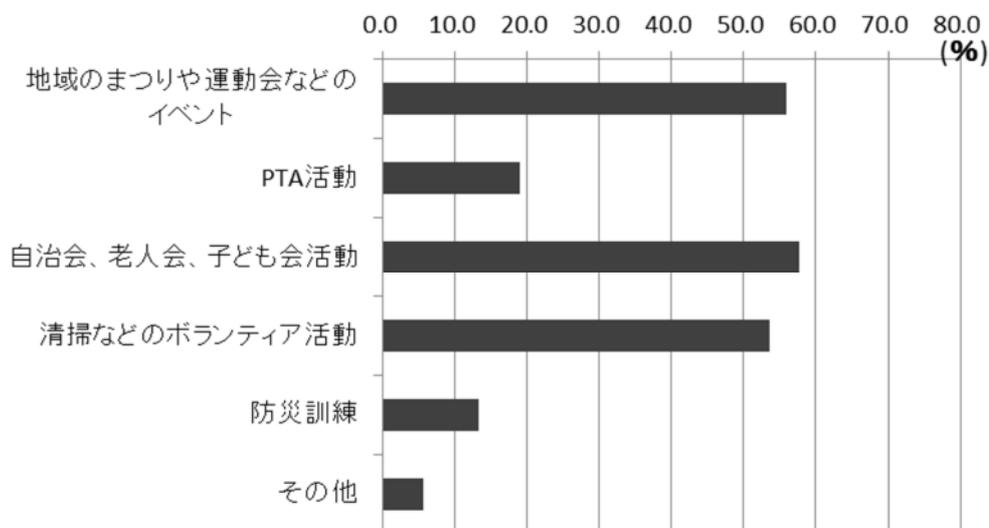
■地域活動等への参加状況（一般市民アンケート）



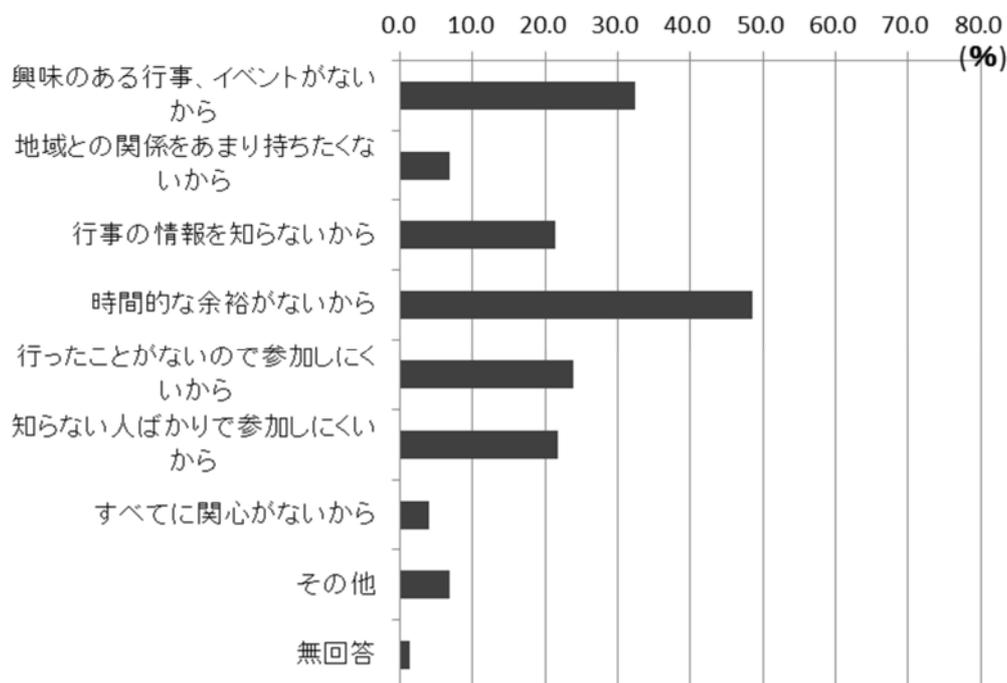
参加している地域活動等の内容は、「自治会、老人会、子ども会活動」、「地域のまつりや運動会などのイベント」「清掃などのボランティア活動」が、それぞれ5割以上でした。

地域活動等に参加しない理由としては、「時間的な余裕がないから」が約5割で最も多く、次いで「興味のある行事、イベントがないから」が約3割、「行ったことがないので参加しにくいから」、「知らない人ばかりで参加しにくいから」、「行事の情報を知らないから」が2割以上でした。行事、地域活動に参加しにくいと感じられており、また、情報に接することが少ないことも課題です。

■参加している地域活動等の内容（一般市民アンケート）



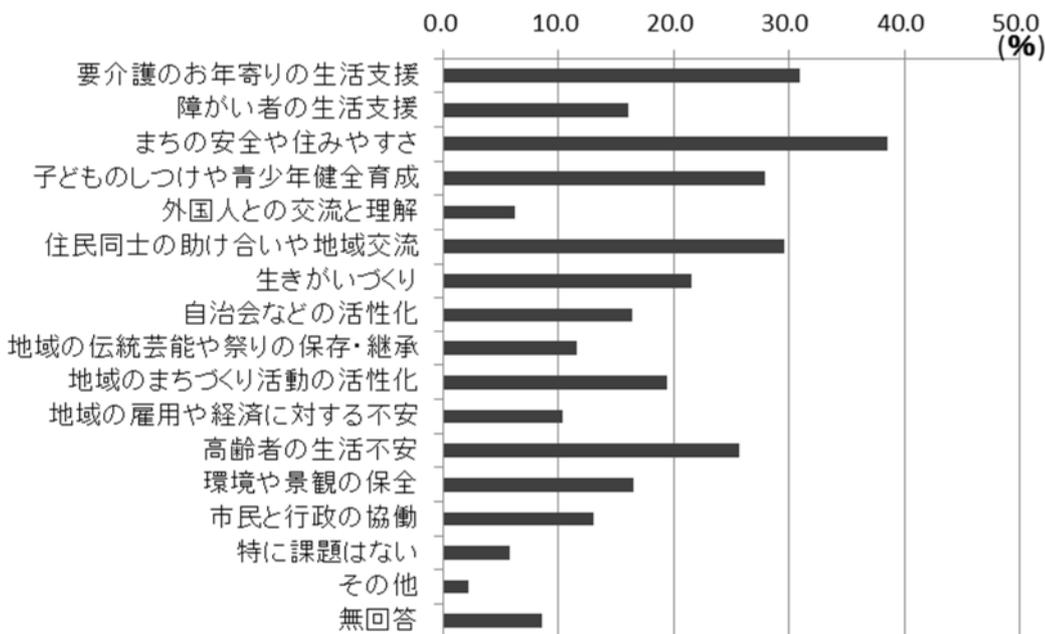
■地域活動等に参加しない理由（一般市民アンケート）



●「まちの安全や住みやすさ」が地域の課題

地域にどのような課題があるかについて、「まちの安全や住みやすさ」が最も多くなっています。次いで「要介護のお年寄りの生活支援」、「住民同士の助け合いや地域交流」、「子どものしつけや青少年健全育成」と続いています。

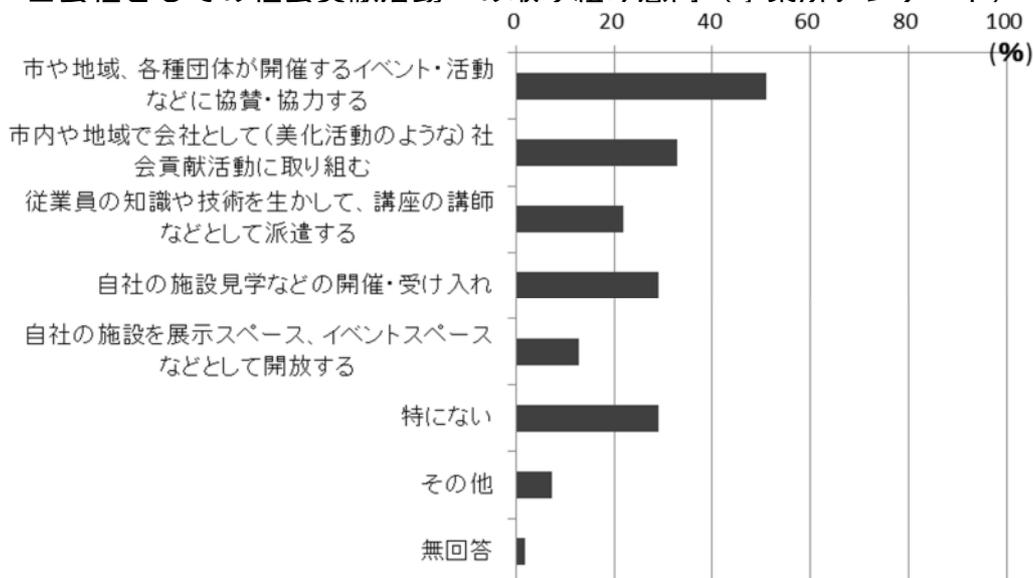
■地域の課題（一般市民アンケート）



●会社としての社会貢献活動への取り組み意向は高い

会社としての社会貢献活動への取り組みについて、7割の事業所で何らかの社会貢献活動への取り組み意向を持っていました。「市や地域、各種団体が開催するイベント・活動などに協賛・協力する」が5割、「市内や地域で会社として（美化活動のような）社会貢献活動に取り組む」、「自社の施設見学などの開催・受け入れ」がそれぞれ約3割で、会社として社会貢献活動に取り組む意向は高いことがわかります。

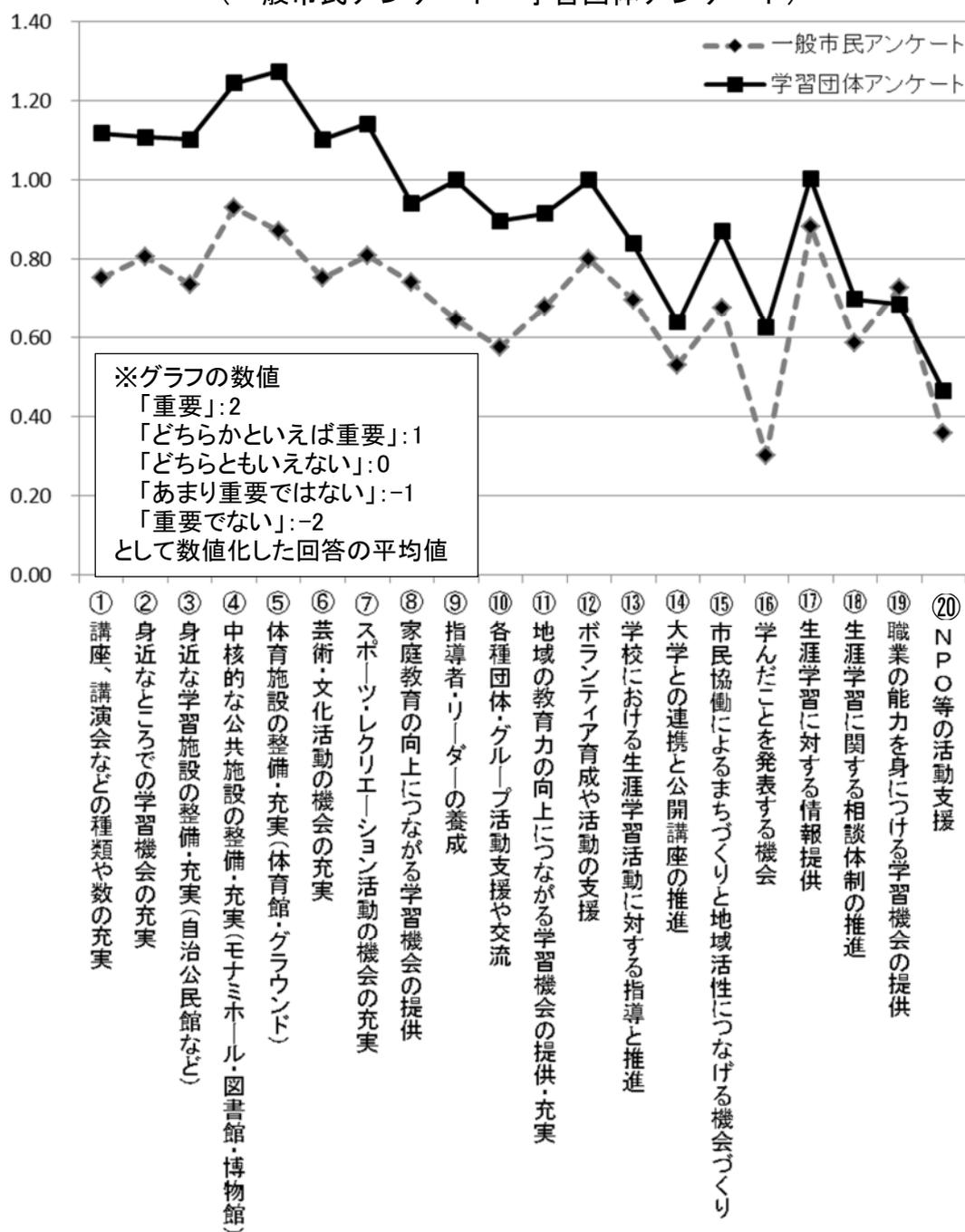
■会社としての社会貢献活動への取り組み意向（事業所アンケート）



●市の取り組みとして「中核的な公共施設や体育施設の整備・充実」と「生涯学習に対する情報提供」の重要度が高い

香芝市が行っている生涯学習の取り組みについて、今後の重要度をたずねたところ、「中核的な公共施設の整備・充実」、「生涯学習に対する情報提供」、「体育施設の整備・充実」、「スポーツ・レクリエーション活動の機会の充実」、「身近なところでの学習機会の充実」、「ボランティア育成や活動の支援」の重要度が高いとされています。生涯学習団体アンケートでは、特に、体育施設や中核的な公共施設の整備・充実が高くなっています。

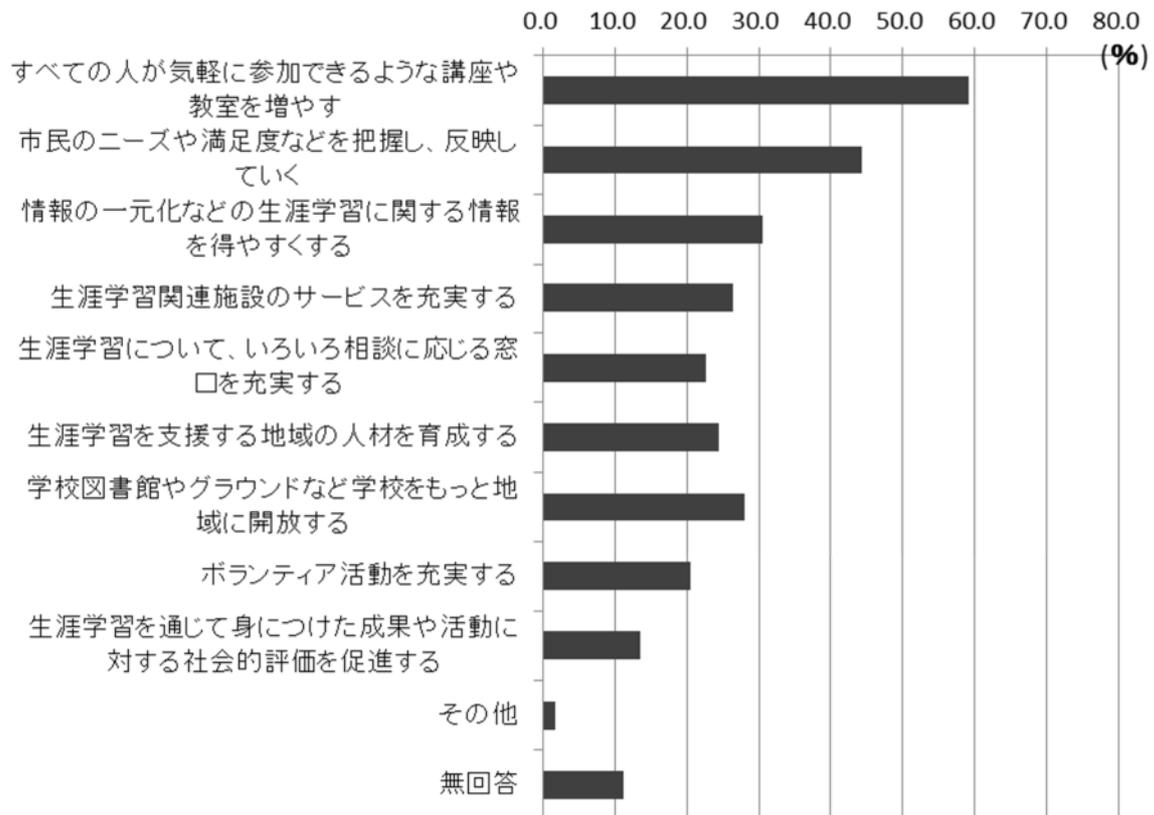
■香芝市の生涯学習の取り組みについて今後の重要度  
(一般市民アンケート・学習団体アンケート)



●今後市が力を入れるべきことは「気軽に参加できるような講座や教室」「市民のニーズや満足度の把握と反映」「生涯学習に関する情報を得やすくすること」

今後、市民の「生涯学習」をもっと盛んにしていくために、市として力を入れるべきことは、「すべての人が気軽に参加できるような講座や教室を増やす」が最も多く、次いで「市民のニーズや満足度などを把握し、反映していく」、「情報の一元化などの生涯学習に関する情報を得やすくする」でした。

■今後市が力を入れるべき生涯学習の取り組み（一般市民アンケート）



## 5 計画策定に向けた社会教育関係団体からの提言

第2次基本計画を策定するにあたり、社会教育関係団体との懇話会を開催しました。新たな基本計画づくりに向けた課題や提言として、次のような意見がありました。

### ①地域・自治会という観点から

- ・行政における生涯学習の位置づけの相対的低下もあり、現実的に地域の発展にとって意味のある「役に立つ」生涯学習が求められています。
- ・一般的な生涯学習活動を越えて、地域課題に取り組み、実際に地域づくり活動を進めていくことができるような「地域をつくる学び」の展開が必要となっています。
- ・サークル的な活動をしている地域と、あまり活動していない地域との差があり、生涯学習での地域間の差の解消のために、どのような取り組みを進めるかが課題です。

### ②ボランティア活動という観点から

- ・市の行事・イベント等に際して、ボランティア活動を公募するなど、市民と行政が協働してまちづくりを進めていく必要があります。
- ・ボランティア活動に参加することによって、必然的にさらなる学習が発展することになるなど、生涯学習と密接な関係にあると考えられます。

### ③情報提供という観点から

- ・生涯学習を推進する上で、情報発信としてマスメディアの活用をもっと積極的に進めるなど、アピール力を高める工夫が必要です。

### ④生涯学習の推進に向けての観点から

- ・生涯学習を推進する上で、「個人ニーズ」と「社会要請」とのバランスに留意することが大切です。
- ・これからの生涯学習の推進については、社会の変化に対応できる自立した個人やコミュニティの形成が求められています。

### ⑤地域の教育力の観点から

- ・地域の教育力の向上のためには、地域全体の学習の支え合い（共同）、地域の課題解決に地域自身の手で助け合い（共生）、家庭や地域と学校の効果的な連携と、つながり合い（共育）の視点をもつことが大切です。
- ・学校、家庭、地域がそれぞれ教育力の向上を図ることと同時に企業等や各種団体がそれぞれ期待される役割を果たしつつ、緊密に連携・協力して地域課題を共有し、課題解決に取り組むことが重要です。

## ⑥生涯スポーツという観点から

- ・生涯スポーツを推進していくためには、市民のライフステージ（子ども・成人期・高齢期・障がい者）に応じた運動・スポーツの推進が必要です。
- ・地域スポーツ活動やイベントの運営に関わる、スポーツボランティアの育成が課題です。スポーツ教室等の開設での競技スポーツに精通した指導アシスタントや、各種スポーツ大会での企画・運営に携わるなど、ボランティアを積極的に発掘し、スポーツを盛り上げる体制の整備が必要です。

## 6 市民ニーズの動向

総合計画進捗管理に係る市民アンケートや生涯学習に関する市民アンケートの調査結果、また、ワーキング部会や社会教育関係団体懇話会で出された意見から、市民ニーズの動向として、次のようなことがあげられます。

### ●市民の日常生活及び全体の住み良さについて

- ・市民アンケートの結果では、全体として住み良さについては、高い評価となっています。
- ・市民の日常生活の悩みや不安では、健康、老後のこと、経済的なこと、子育てなどが多くなっています。
- ・地域の課題としては、まちの安全や住みやすさ、高齢者の生活支援、住民同士の交流が多くあげられています。

### ●子育て支援について

- ・子育ての環境については比較的高い評価があるものの、本市では年少者人口の割合が他自治体に比べて高く、「子育て」「教育」などに重点的に取り組んでいく必要があります。
- ・行政との関係において、地域住民は単に受益者であるだけでなく、福祉や教育課題においては、住民自身の取り組みも重要であるとの意識が高まっている傾向が見られます。
- ・今後は、まちづくりや市民活動の中での学び、まちづくりをすることが学びになり、その成果が社会参加になるという、まちづくり活動の相互的機能が生涯学習を進める一つの視点になります。
- ・市民協働を進めるためには、行政は、様々な市民の活動をつないでいく支援が求められます。生涯学習では、行政の縦割りを乗り越えて総合的な形で進めることが求められます。

## ●地域コミュニティについて

- ・地域課題に取り組み、実際の地域づくり活動を進めていくことができるような「地域をつくる学び」の展開が必要となっています。生涯学習について、地域を核にして、横につながっていくことが必要になります。
- ・地域の教育力向上のためには、学校、家庭、地域がそれぞれの教育力の向上を図ることと同時に、企業等の各種団体がそれぞれに期待される役割を果しつつ、緊密に連携・協力して、地域課題を共有し、課題解決に取り組むことが重要です。

## ●安全・安心と都市環境について

- ・市民アンケートの結果では、地域にどのような課題があるかについて、「まちの安全や住みやすさ」が最も多くなっています。
- ・地域での安全・安心な生活を保障していく上で、防災・防犯は重要課題といえます。
- ・高齢者や障がい者にとって外出しやすい環境が重要であり、都市環境のバリアフリー化の整備が急務となっています。

## 7 第2次基本計画策定に向けての課題

第1次基本計画の評価と市民アンケートの調査結果、ワーキング部会や社会教育関係団体懇話会で出された意見などから、第2次基本計画の策定に向けて、次のように課題を抽出しました。

### 学びの体制づくりに向けた課題

#### ①全庁的な生涯学習の推進体制の整備

- ・行政各分野において、生涯学習を総合行政としてより一層推進していくために、生涯学習推進本部の体制について整えていく必要があります。
- ・生涯学習のまちづくり、人づくりを進め、生涯学習都市をめざしていくことを考えていく必要があります。
- ・生涯学習に関連する各種事業の活動支援を図るとともに、生涯学習の推進母体となっている社会教育関係団体等への支援強化を図り、市民の自主的、主体的な学習活動を進めていく必要があります。

### だれもが学べる環境づくりに向けた課題

#### ②生涯を通して学べる環境づくり

- ・新たな学習者の掘り起こしを進めるとともに、人生の成長過程に応じた幅広い学習プログラムを提供し、市民のニーズに対応した学習と社会的な課題に対応した学習のバランスを保ちつつ、様々な学習機会の提供と充実を図る必要があります。
- ・市民に市政に関する理解を深めていただくとともに、地域の課題を行政と市民が一体となって考える機会をつくり、協働のまちづくりを推進していく必要があります。
- ・地域に根差した教育機会の提供が求められていることから、公益法人や公共機関、民間企業、NPO等との連携により、多様な講座を取り入れ、一層の生涯学習メニューの拡充が必要です。

#### ③高齢社会の進行への対応

- ・本市は全国平均より高齢者人口比率（高齢化率）は低く、年少者人口比率が高い、若いまちですが、今後は高齢化の進展が予測されます。市内には、すでに高齢化が進んでいる地域もあり、高齢社会にも対応した生涯学習の推進が求められます。
- ・生涯学習における高齢者の学習需要は、高度かつ多様なものとなっています。多様なライフスタイルに応じて高齢者に生涯学習の機会を提供するとともに、高齢者の豊富な知識と経験を社会に役立てていくことが重要です。

#### ④生涯学習施設機能の充実

- ・生涯学習の施設として拠点になっている中央公民館をはじめ、市民図書館等の生涯学習施設の連携を深め、利用の促進が図れる体制が必要です。
- ・中央公民館については、特に地域住民の学習ニーズに対応した講座や社会の要請が高い学習機会を提供する必要があります。
- ・各地域の社会資源である公民館や集会所が、地域におけるネットワークづくりのコーディネートをを行い、これまで以上に多様な人々との新たな絆と地域との関わりを深め、人と組織を結ぶ地域づくりの拠点施設としての役割を担っていくことが求められます。

#### ⑤学習成果を活かす環境づくり

- ・市民一人ひとりの学習を発展させるために、学校や生涯学習施設等で市民が学習を通して交流し、学習成果を他者に伝え、教え、互いに学び合うことで、市民が自らの学習成果を十分に活かせる機会や場の創出が求められます。
- ・香芝の歴史や文化、自然など地域の魅力や、市民生活に密着した課題について専門的に学び、その成果を地域や社会に還元できる人材を育成することをめざした、「かしば市民学校（大学）」といった構想も学校余裕教室等の活用を視野に入れて考えていく必要があります。

### 子どもと育ちあう環境づくりに向けた課題

#### ⑥家庭教育の支援づくり

- ・家庭の教育力を高めるため、家庭教育の自主性を尊重しつつ、親として自信を持って子育てができるよう、家庭教育への社会的な支援が重要です。本市の家庭教育の基盤となっている、各小学校単位での家庭教育学級のより一層の充実が必要です。
- ・子育てに関する悩みや不安を共有でき、親同士や親子がふれあえる交流の場を増やすとともに、学びを通じて親同士の仲間づくりを進める必要があります。
- ・社会全体で子育てや子どもの見守りについて、ともに考え行動していくため、学校、家庭、地域が一体となって様々な家庭教育の支援を行う環境の整備が重要です。

#### ⑦子育て支援への対応

- ・若い世代の意識の変化や、就労形態をはじめとするライフスタイルの多様化に対応する子育て支援のあり方が課題となっています。
- ・今後も共働き家庭が増加すると考えられることから、仕事と子育ての両立（ワーク・ライフ・バランス）の視点が重要となっています。

## みんなで学びあう地域づくりに向けた課題

### ⑧地域コミュニティの充実

- ・本市では人口増加が続き、急激な都市化の進展に加えて、核家族化、少子高齢化により、住民同士の交流や助け合いが少なくなり、子育て、福祉、介護、安全など、これまで住民同士が助け合って解決してきた問題への対応が難しくなっています。
- ・核家族化・単身化へと家族構成が変化する中で、これまで家族が担ってきた子育てや介護などの機能を、家族だけでは担うことはできなくなっています。
- ・地域コミュニティの希薄化により、住民の連帯感や自治意識が低下している状況が見られることから、従来から地域を担っている自治会に加えて、近年増えているボランティアやNPOの活動など、地域の課題を地域で解決できる新しいコミュニティを構築していく必要があります。

### ⑨生涯学習におけるネットワークの構築

- ・多様化する市民の学習活動や学習ニーズに応え、生涯学習社会における社会教育行政を推進するためには、多様な機関の間で多様なレベルでの連携が不可欠です。
- ・行政各部署が展開する事業や民間の活動が個別に実施されると同時に、こうした活動がネットワークを形成し、相互に連携し合うことが重要です。
- ・本市では、地域福祉を推進する「地域福祉計画」が策定され、地域において新たな諸活動が行われるなど、生涯学習と強いつながりを持った施策が進められつつあります。このため、広範な領域で行われる学習活動に対して、様々な立場から総合的に支援していく仕組みとしてネットワークの構築が必要です。

## 学びを広める環境づくりに向けた課題

### ⑩学習情報、活用場の情報提供システムの構築

- ・生涯学習に関する情報を一元的に集約・整理し、市民が学び、学んだ成果を活かすために必要な情報が、必要な時に得られる環境をつくるための、学習・活用情報提供システムを構築していく必要があります。
- ・公民館だよりや生涯学習に関するニュースレターなど、紙媒体による情報提供の充実とともに、若年層での情報提供の主流となっているホームページや配信サービス等、多様な手段により、効果的な情報発信を行っていく必要があります。

### ⑪相談体制の環境整備

- ・市民の生涯学習のきっかけづくりを進めるうえで、講座やイベント、講師、学習成果を活かす場など、生涯学習関連情報について、市民がそれぞれに適した選択をすることができるよう、相談体制の整備が必要です。

# 第3章

## 計画の基本的方向

# 1 香芝市がめざす生涯学習像

## (1) 計画策定の必要性

### ●生涯学習の基盤整備

今日、生涯学習への関心が高まり、学校、地域、職場等において個人やグループが様々な機会や手段、方法を利用して多種多様な学習活動が行われています。

その社会的背景としては、自由時間の拡大、高齢化の進行などに伴い、新たな知識・技術を習得したいと考えている人が増加していることがあげられます。特に今後は、社会構造の急激な変化、本格的な高齢社会の到来を背景に、個人の学習需要は一層高度かつ多様なものとなっていくと考えられることから、これに対応した生涯学習の基盤整備が求められています。

### ●総合的な生涯学習政策の構築

香芝市は、全国でも有数の人口増加を続けているまちです。特に近年においても、我が国全体の傾向とは異なり、年々人口の増加が続いています。しかし、その一方で、高齢化も着実に進んでいます。

子どもから高齢者まで市民の生涯学習ニーズも多様化していることから、これに対応した総合的な生涯学習政策の構築が必要となってきています。

### ●市民協働の高まり

これからのまちづくりには、行政だけが主導するのではなく、市民参画と市民協働が強く求められています。今後さらに、地方分権が一層進むことが予測され、自治体には、自己決定・自己責任による自律した行財政運営が求められます。

香芝市では、大阪都市圏のベッドタウンという性格が色濃く、いわゆる団塊の世代が高齢世代に達したことにより、地域を拠点に生活する人が増えていくと考えられます。

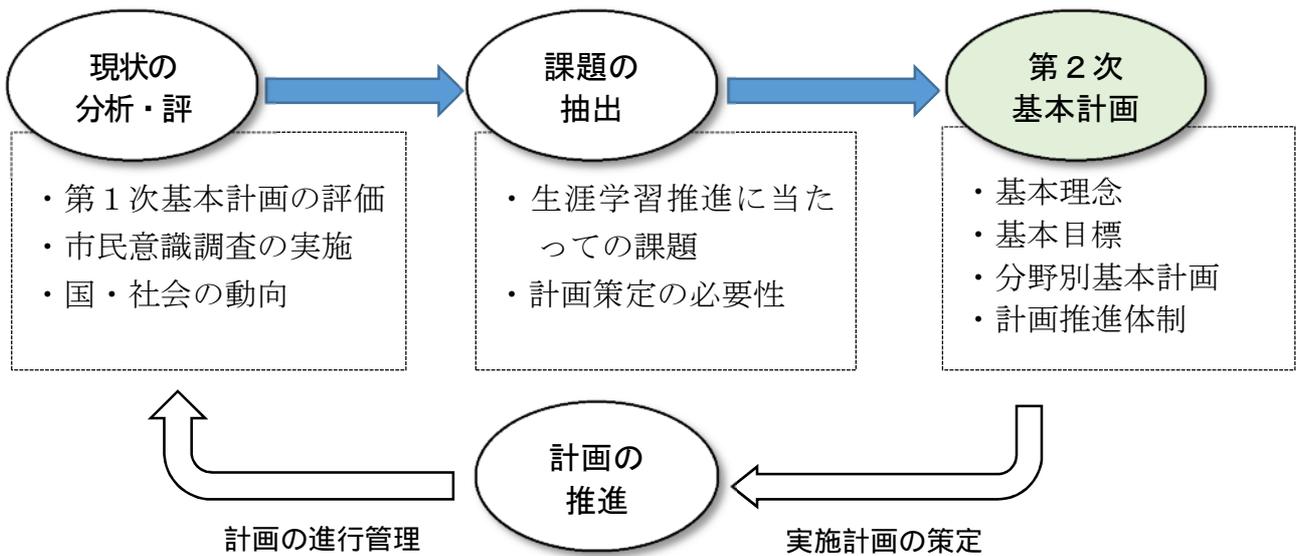
まちの総合的な活力を生み出していくためには、香芝市という地域において、多くの市民が、様々な形で活動していくことが必要です。その意味から、基本計画策定においては「地域型の生涯学習」の考え方が基本となります。

### ●地域型生涯学習を基盤としたまちづくり

香芝市は、民間調査においても、「住み良さ・暮らしやすさ」の評価で上位にランクされています。このようなまちの特長をさらに伸ばさせていくことが求められます。

そのために、教育、福祉、環境など、市民の身近な生活課題への対応が、今後も求められます。そこで、地域型生涯学習を基盤としたまちづくりを推進していく、第2次基本計画の策定が必要となっています。

## ■第2次基本計画づくりの概念図



### (2) 計画策定における政策目標

#### ●新たなまちづくりを見据えた生涯学習計画

香芝市は、全国的な傾向とは異なり、一貫して人口増加が続いているまちです。その増加率は鈍化しつつあるものの、今後も一定程度の増加が続くものと予測されているいま、新たなまちの方向性を見出していく必要があります。

このような背景の下、本市では、最上位計画である総合計画をはじめとする関連計画との整合性を図りながら、第2次基本計画の策定を進めていくこととなります。この基本計画策定において、生涯学習を通じて市民生活の質の向上を図ることによって、新たな市の発展をめざしていくことが必要になっています。

現在の本市においては、子育て世代が多く、その政策の重要性が高いといえる一方で、高齢化も着実に進む中、市民の多くはこれからの老後に向けて不安を抱えています。人口増加という際立った特長を持つ本市において、多くの市民が愛着を持って、香芝の地に住むことができるよう、「地域で学ぶ、地域に学ぶ」ということが、今、求められています。

このようなことから、生涯にわたる学習を基盤とした、まちづくりを推進していくことをめざします。

#### ●人と人との「つながり」のある生涯学習計画

これからの生涯学習を推進するには、市民の参加が前提となります。市民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化、その他あらゆる分野の活動に参加する機会が得られるように、生涯学習を推進していかなければなりません。

第2次基本計画を通して、市民参画・協働による生涯学習の実践が求められています。

人と人とのつながりが希薄化しつつある現在、生涯学習の理念の実現をめざす体制づくり

は、新たなコミュニティの形成に結びつくものと考えています。

これからは、市民の力を、様々な形で活かしていくことが、香芝市全体の新たなまちの活性化につながると考えます。いま求められていることは、人と人がつながり、市民の意思で新たなまちの未来を切り開いていくことです。

#### ●学んだことを「地域」で活かす生涯学習計画

市民の生涯学習活動が活発になっていく中、学習を通じて身につけた知識や技術を広く地域や社会の中で活かせる人を増やしていく必要があります。

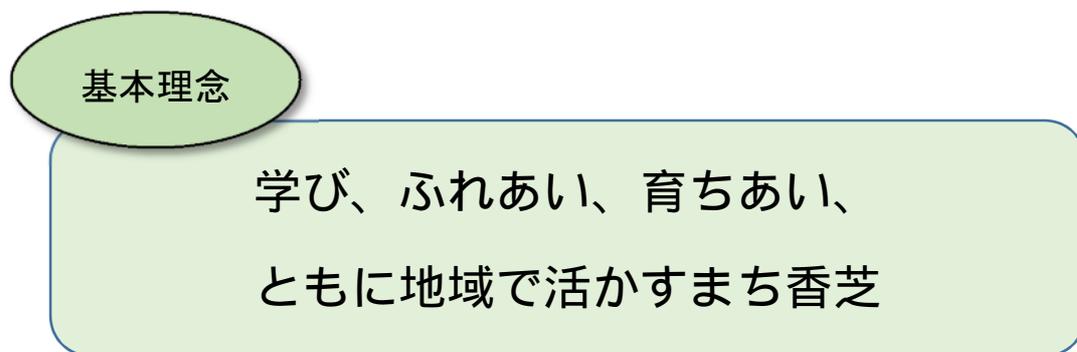
生涯学習は、自らの能力・技能や生活の向上などをめざすだけでなく、それを基盤として地域社会に参加し、活発に活動することで、よりよい人間関係をつくり、すべての市民が住みよいまちを築いていくことに重要な役割を果たします。市民一人ひとりが自らの資質を高め、常に問題意識をもって様々な角度からまちづくりに取り組むことによって、本市の活性化が図られるとともに、身近な地域のコミュニティの活性化につながります。

## 2 第2次基本計画の基本理念

政策目標として掲げた、まちの総合的な活力を生み出していく「新たなまちづくりを見据えた生涯学習」、市民の力を活かす「人と人との『つながり』のある生涯学習」、地域で学び、地域に学ぶ「学んだことを『地域』で活かす生涯学習」の実現に向けて、第2次基本計画では次のような生涯学習をめざします。

一人ひとりが自立して、健康で充実した人生が送れるよう、生涯にわたり学びを支援します。また、学んだ成果を活かしあい、地域への還元・社会貢献や新たな挑戦ができるよう、学びの循環を図ります。学んだことを地域で活かす地域型生涯学習を基盤としたまちづくりを進めます。

香芝市としてのめざすべき生涯学習都市像をあらわす本計画の基本理念は、「学び、ふれあい、育ちあい、ともに地域で活かすまち香芝」とします。



### ■計画実現の概念図



基本目標

だれもが  
学べる  
環境づくり

1 ライフステージに対応する  
学習機会の提供と成果を  
活かす環境づくり

子どもと  
育ちあう  
環境づくり

2 子どもと大人が育ちあう、  
子育てしやすい環境づくり

具体的取組み（施策）

(1) 学習機会の充実強化

- ①長寿・福祉社会づくりのため学習課題への取り組み
- ②地域が抱える課題等についての学習機会の提供
- ③高齢社会に対応した高齢者への学習支援
- ④障がいのある人が参加しやすい機会提供
- ⑤生涯学習プログラムの充実
- ⑥生涯学習施設の広域間連携
- ⑦生涯学習施設の整備・充実

(2) 芸術・歴史文化イベント等の振興

- ①交流を生み出す文化・芸術の基盤整備
- ②歴史・文化財の学習機会の充実
- ③学校と博物館、図書館の連携推進

(3) 学校教育の充実

- ①地域社会に根ざした教育活動の推進
- ②地域との環境学習・福祉教育の連携
- ③キャリア教育の推進
- ④読書教育の推進
- ⑤幼・保・小・中連携、高等学校、大学との連携

(4) 生涯スポーツの推進

- ①健康づくり、体力づくり、仲間づくりとしてのスポーツ振興の実践強化
- ②総合型地域スポーツクラブとの協働による地域スポーツの推進
- ③スポーツ・レクリエーション活動の振興

(5) 学習成果の評価制度の推進

- ①学習成果を評価する制度の創出と活用の推進
- ②学習活動の成果を公表できる機会の充実
- ③学習成果を地域社会に還元する機会の充実

(1) 家庭の教育力の向上

- ①親同士の学びのネットワークの構築
- ②健康学習（食育）についての機会提供

(2) 子育て相談活動の充実

- ①子育て支援体制の整備
- ②地域における子育て支援のサポート体制の構築
- ③子育てに関する情報提供の推進

(3) 家庭・学校・地域の連携強化

- ①子ども体験活動の推進
- ②青少年健全育成に向けた支援活動の促進
- ③子ども読書活動の推進

基本目標

学びを  
広める  
環境づくり

3 学びの情報をだれもが  
得られる環境づくり

みんなで  
学びあう  
地域づくり

4 地域みんなで学びあう  
(協育による)生涯学習の  
まちづくり

学びの  
体制づくり

5 市民と行政が進める  
生涯学習の体制づくり

具体的取組み（施策）

(1) 情報収集・発信システムの構築

- ①生涯学習関連情報の収集と提供体制の確立
- ②生涯学習ガイド等情報発信の推進
- ③各種メディアを活用した情報提供の推進

(2) 生涯学習の相談窓口の体制づくり

- ①生涯学習活動に関する総合相談窓口の設置
- ②専門職としての社会教育主事の配置
- ③生涯学習のコーディネーターやサポーターの育成

(3) 生涯学習に関わる普及啓発と意識の高揚

- ①生涯学習に関わる総合的な啓発事業の開催
- ②生涯学習を高揚するイベント等の開催
- ③人権意識の高揚
- ④男女共同参画社会に向けての意識の高揚

(1) 協働による地域活動の活性化

- ①学習成果を活かした地域づくりの推進
- ②出前講座のメニュー充実と指導者の養成

(2) 地域コミュニティの充実

- ①安心安全な防犯・防災活動の推進
- ②地域コーディネーターの育成

(3) 人材養成と活動支援の仕組みづくり

- ①生涯学習リーダー等の養成
- ②社会教育関係団体等の育成支援
- ③人材バンク制度の再編と広域連携の構築
- ④ボランティア活動に参画する仕組みづくりと育成支援

(4) NPO、民間団体等との協働による生涯学習の推進

- ①NPO等とのネットワークの構築（地域事業への支援）
- ②NPO等との協働による調査研究

(5) 学校と地域の学びあう場づくり

- ①学校と地域福祉活動との連携

(1) 生涯学習推進本部の充実

- ①生涯学習推進本部の設置と機能の充実

(2) 生涯学習推進担当の体制整備

- ①行政職員に対する生涯学習の理解促進
- ②生涯学習推進担当の配置及び研修の充実

(3) 生涯学習推進のための市民組織づくりと市民活動の支援

- ①市民組織づくりと活動の支援
- ②市民の生涯学習活動の役割について啓発の推進

### 3 第2次基本計画の基本目標

本計画の基本理念「学び、ふれあい、育ちあい、ともに地域で活かすまち香芝」を実現するために、次の5つの基本目標を設定します。

#### だれもが学べる環境づくり

##### 1 ライフステージに対応する学習機会の提供と成果を活かす環境づくり

乳幼児期から高齢期まで、それぞれのライフステージでの学習ニーズに対応する学習機会を提供し、すべての人が気軽に生涯学習に取り組むことができる環境づくりをめざします。そして、それぞれの学習した成果を活かすことができる学びの環境づくりをめざします。

#### 〈 目標実現に向けた取組みの柱 〉

- 学習機会の充実強化
- 芸術・歴史文化イベント等の振興
- 学校教育の充実
- 生涯スポーツの推進
- 学習成果の評価制度の推進

## 子どもと育ちあう環境づくり

### 2 子どもと大人が育ちあう、子育てしやすい環境づくり

核家族化や少子化による家庭のあり方の変化に対応し、家庭の教育力の向上が求められることから、学びを通じて子ども同士や親同士、地域の子どもと大人が交流することで、ともに育ちあう、子育てしやすい環境づくりをめざします。

#### 〈 目標実現に向けた取組みの柱 〉

- 家庭の教育力の向上
- 子育て相談活動の充実
- 家庭・学校・地域の連携強化

## 学びを広める環境づくり

### 3 学びの情報をだれもが得られる環境づくり

生涯学習に関する情報を一元的に集約し発信するシステムの構築など、市民が学び、その成果を活かすために、必要な情報を必要な時に得られる環境づくりをめざします。

また、各種講座やイベント、講師、学習成果を活かす場などの生涯学習関連情報に、市民が気軽に接することができ、最も適した選択ができるような相談体制づくりをめざします。

#### 〈 目標実現に向けた取組みの柱 〉

- 情報収集・発信システムの構築
- 生涯学習の相談窓口の体制づくり
- 生涯学習に関わる普及啓発と意識の高揚

## みんなで学びあう地域づくり

### 4 地域みんなで学びあう（協育による）生涯学習のまちづくり

本市では人口増加と急激な都市化の進展に伴い地域コミュニティの希薄化も見られることから、従来から地域の中核となっている自治会に、地域の見守りを担っている民生児童委員・地域安全推進委員やNPO、民間団体等も加えて、地域みんなで「協育による」生涯学習の取組みを進めます。

そして、地域での学びを通じて、子育て、福祉、介護、安全など、地域の課題を地域で解決できる、生涯学習のまちづくりをめざします。

#### 〈 目標実現に向けた取組みの柱 〉

- 協働による地域活動の活性化
- 地域コミュニティの充実
- 人材養成と活動支援の仕組みづくり
- NPO、民間団体等との協働による生涯学習の推進
- 学校と地域の学びあう場づくり

## 学びの体制づくり

### 5 市民と行政が進める生涯学習の体制づくり

行政各分野において、生涯学習を総合行政として推進していくために、生涯学習推進本部の体制を整えます。

また、生涯学習関連の様々な事業・活動の支援を図り、生涯学習の推進母体となっている社会教育関係団体、NPO、企業等への支援を強化するなど、市民の自主的、主体的な活動を進める体制づくりをめざします。

#### 〈 目標実現に向けた取組みの柱 〉

- 生涯学習推進本部の充実
- 生涯学習推進担当の体制整備
- 生涯学習推進のための市民組織づくりと市民活動の支援

# 第4章

## 分野別基本計画

## 1 ライフステージに対応する学習機会の提供と成果を活かす環境づくり

### (1) 学習機会の充実強化

#### 〈 現状と課題 〉

市民の多様化、高度化する学習ニーズに対応するため、中央公民館を拠点として、各種講座や様々な学習活動が展開されています。

地域には、環境・福祉・安全など、生活にかかわる様々な課題があります。「香芝市地域福祉計画」(平成23年3月)においては、「地域福祉」の理念を実現するためには市民の「参画」「協働」が不可欠であるとされています。このような考え方を市民と共有し、地域課題への取り組みにつなげていく生涯学習が求められています。

また、本市においても高齢社会を迎え、健康を維持継続できる高齢者がいる一方、加齢に伴う様々な疾病や心身機能の低下により治療や介護を要する高齢者の割合も増加します。そして、多様なライフスタイルに対応する生涯学習の取り組みが重要です。

今後は、学習活動へのきっかけづくりや参加しやすくするための環境づくりを行うとともに、地域の社会資源の活用をはかり、生涯学習を通じて「人間力」、「地域力」、「創造力」を高める基礎となるよう、学習機会の提供の充実に取り組んでいくことが必要です。

#### 〈 基本的方向 〉

地域福祉の取り組みと連携しながら、地域課題への学習機会の充実を図ります。

高齢者の豊富な知識と経験を社会に役立て、多様なライフスタイルを可能とする学習支援に取り組めます。

障がいのある人が気軽に参加しやすい機会の提供に取り組めます。

市民ニーズに対応した生涯学習施設の広域間連携や生涯学習施設の整備・充実を図ります。

#### 学習機会の充実強化

- ①長寿・福祉社会づくりのため学習課題への取り組み
- ②地域が抱える課題等についての学習機会の提供
- ③高齢社会に対応した高齢者への学習支援
- ④障がいのある人が参加しやすい機会提供
- ⑤生涯学習プログラムの充実
- ⑥生涯学習施設の広域間連携
- ⑦生涯学習施設の整備・充実

## 〈 具体的取組み内容 〉

### ①長寿・福祉社会づくりのため学習課題への取り組み

長寿・福祉社会づくりに向けて、地域福祉の取り組みと連携しながら市民と協働していく中で、学習課題を見出し、解決に向けた取り組みに努めます。

### ②地域が抱える課題等についての学習機会の提供

環境・福祉・安全など、生活にかかわる様々な地域の課題に市民が目を向け、課題の解決に向けた取り組みに参加していけるように、それぞれの地域でニーズにあった新たな「地域出前講座」を取り入れるなど学習機会の提供に努めます。

### ③高齢社会に対応した高齢者への学習支援

高齢社会に対応して、心身状況が異なる高齢者に生涯現役社会にふさわしい学習機会を提供するとともに、豊富な知識と経験を役立ててもらえるよう支援します。

### ④障がいのある人が参加しやすい機会提供

障がいのある人が、ゆとりや生きがいのある生活を営むことができるよう、地域交流や各種の活動への参加につながる機会の提供に努めます。

### ⑤生涯学習プログラムの充実

近年のめまぐるしく変化する社会経済状況に対応するために市民の学習ニーズと社会的な課題の適切な把握に努め、生涯学習プログラムの充実を図ります。

### ⑥生涯学習施設の広域間連携

本市の公共施設だけではなく、隣接する自治体などの生涯学習関連施設も、通勤途中で立ち寄れるなどの利便性から利用者ニーズが高いと考えられます。そのため、生涯学習関連施設の広域間利用についての情報収集や広域間連携について検討します。

### ⑦生涯学習施設の整備・充実

中央公民館をはじめとする生涯学習施設の整備・充実について、市民ニーズが高いことから施設の整備・充実に向けた整備計画づくりに取り組みます。

## (2) 芸術・歴史文化イベント等の振興

### 〈 現状と課題 〉

文化・芸術活動は、人の心を豊かにし、人と人との出会いから新しい交流を生み出すなど、生涯学習社会をつくる上で大きな役割を果たすものです。美術展覧会も年々出展者が増加し、技術や作品の質も向上しています。

今後とも、市民の自主的な文化・芸術活動を広めるために、活動の発表・交流の場となるイベントや情報発信などを積極的に進めていく必要があります。また、地域の個性や魅力を高め、地域文化を育てていくことが重要です。

また、本市では、飛鳥時代後半に創建された尼寺廃寺跡と平野塚穴山古墳が、国史跡に指定されています。この他にも重要な文化財が、貴重な歴史遺産として継承されています。このような文化財について、国・県の指定を受けることで保護・継承を図るとともに、貴重な文化財が学校教育や生涯学習に活かされるよう、情報発信をし、観光資源として活用していくことが必要です。

### 〈 基本的方向 〉

文化・芸術を通して心の豊かさや人の交流を生み出すよう、活動の基盤づくりに努めます。

貴重な歴史・文化遺産を次世代に引き継ぎ、市民が香芝のまちに愛着をもって住み続けていけるよう、歴史・文化財にかかわる学習機会の充実を図ります。

博物館や図書館などの公共施設を、身近な学習の場としてさらに活かすために、学校と博物館、図書館の連携を推進します。

#### 芸術・歴史文化イベント等の振興

- ①交流を生み出す文化・芸術の基盤整備
- ②歴史・文化財の学習機会の充実
- ③学校と博物館、図書館の連携推進

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①交流を生み出す文化・芸術の基盤整備

市民の自主的な文化・芸術活動を支援するための受け皿づくりなど、基盤整備に努めます。

#### ②歴史・文化財の学習機会の充実

貴重な歴史・文化遺産を保存し、次世代に引き継いでいくとともに、多くの市民が香芝

のまちに愛着をもつきっかけとなるよう、歴史・文化財にかかわる学習の機会を工夫し充実します。

二上山博物館を拠点として、歴史文化の情報発信や、史跡尼寺廃寺跡ガイド施設（平成27年度建設予定）などの地域の歴史資源を活用した学習機会の提供を、市民ボランティアとの協働により進めます。

### ③学校と博物館、図書館の連携推進

二上山博物館、市民図書館など個人が自由に来館でき、自発的に学習できる身近な学習の場となる施設の機能の充実を図ります。

また、現在、学校と博物館との連携による「博・学連携事業」を進め郷土学習授業を実施しています。今後とも学校と博物館、図書館との連携を推進します。

### (3) 学校教育の充実

#### 〈 現状と課題 〉

本市では、児童・生徒が確かな学力を身につけられるように、学校における指導方法や内容等の充実を図るとともに、規範意識を高めるための道徳教育、健康教育、体力づくりなどを通して「生きる力」を育む学校教育に取り組んでいます。

今後とも、子どもたちが安全で安心して学べる教育環境を整備するとともに確かな学力（知）、豊かな心（徳）、健やかな体（体）の調和がとれた「生きる力」の育成を図ることが重要となります。また、家庭や地域との連携により、子どもたちが学校の内外で「生きる力」を育むことができるような環境づくりと仕組みづくりを進めていくことが必要です。

生涯学習に期待される教育機能を十分に発揮できるよう、地域社会に根ざした学校として地域社会とともに発展していくような取り組みが必要です。そのために、単に知識を身につけるだけではなく、自ら学ぶ意欲や自分で考え行動する力を高め豊かにすることが重要です。学校において、このような教育を推進することは、生涯を通じて学び続けようとする意欲と能力を培うことにつながっていきます。

#### 〈 基本的方向 〉

学校と地域との連携を強化し、地域の教育資源や人材を活用した地域社会に根ざした教育活動を推進します。

子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育を進めていけるよう学校教育と企業等との連携を進めます。また、市民図書館、学校図書館の図書ボランティアなどと協働して読書教育の推進を図っていきます。

さらに、就学前から小学校、中学校への教育の連携を深め、さらに高等学校、大学との連携を図りながら、子どもたちが社会に巣立つまで、発達段階に応じて健やかに成長していけるよう学校間の連携に取り組めます。

#### 学校教育の充実

- ①地域社会に根ざした教育活動の推進
- ②地域との環境学習・福祉教育の連携
- ③キャリア教育の推進
- ④読書教育の推進
- ⑤幼・保・小・中連携、高等学校、大学との連携

## 〈 具体的取組み内容 〉

### ①地域社会に根ざした教育活動の推進

地域社会に根ざした教育活動を展開していけるよう、学校と地域との連携を図ります。

このため、学校と地域との連絡調整を密にし、多様な課題について検討する場づくりを行うとともに、子どもの居場所の整備に努め、学習活動、スポーツ・文化活動、ボランティア活動などを通して、学校外の学習活動の支援を推進します。

また、地域のコミュニティ・スクールとしての学習施設の開設や地域の教育資源や人材を活用した学社連携・融合事業などを進めます。

### ②地域との環境学習・福祉教育の連携

子どもたちの環境学習プログラムの実践活動を通じて、地域の環境保全活動の体制づくりに努めます。

子どもたちの環境保全活動への参加を促進するために、出前講座の活用や参加体験型学習の取組みに努めます。

福祉教育においては、地域福祉計画に位置づけされている福祉教育活動に地域との連携を図りながら取組みます。

### ③キャリア教育の推進

子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められています。

このような視点から、子どもたちの発達段階に応じたキャリア教育を学校内外での学習を通して進めていくよう、学校と企業等と緊密に連携し推進していきます。

### ④読書教育の推進

市民図書館の蔵書の充実をはじめ、学校図書ボランティアなどと一体となって、児童・生徒の読書教育の推進に取り組みます。

また、市内の小・中学校には専任の司書教諭は配置されていない状況ですが、今後は学校司書も含め配置について県へ働きかけていきます。

### ⑤幼・保・小・中連携、高等学校、大学との連携

「香芝市幼・保・小・中連携教育推進協議会」を設置するなど、就学前から小学校、中学校への教育の連携を図り、子どもたちが発達段階に応じて健やかに成長していけるよう取り組みます。

また、小・中学校と市内の高等学校との連携による、規範意識の向上をめざした「あいさつ運動」の展開や、地域の中学校への出前授業など、小・中学校と高等学校の連携を進めます。

今後は近隣の大学からのインターンシップの取り組みを充実させるなど、大学との連携を深めていくよう努めます。

## (4) 生涯スポーツの推進

### 〈 現状と課題 〉

スポーツは、生涯にわたり心身とも健康に文化的な生活を営む上で不可欠なものです。近年、健康長寿の最大の阻害要因となる生活習慣病の抑制に向けて、健康づくりのための運動・スポーツが積極的に進められています。生涯にわたって健康・体力の維持増進を図るには、継続的な運動・スポーツが有効な手段であり、また仲間づくりにもつながります。

市民のだれもが、それぞれの体力、年齢、目的に応じて、いつでも、どこでも、だれでもスポーツに親しむことができる、生涯スポーツ社会の実現が求められています。そのためには、地域のスポーツ機会の確保・充実が重要な条件となります。

一方で、地域社会では、地域におけるスポーツを通じた交流は地域の活力を生みだし、地域社会の再生につながっていきます。

現在、体育協会をはじめ様々な団体が、多種多様なスポーツ・レクリエーション活動を展開しています。また、地域住民が主体となって運営する香芝市総合型地域スポーツクラブ「レッツかしば！」が平成22年に設立され、徐々に会員数も増えつつあります。今後は、各地域単位での活動を拡大していくことが望まれます。

さらに、学校・地域との連携や市民参画・協働などを視野に入れた、地域スポーツ活動の展開が課題となります。

### 〈 基本的方向 〉

生涯にわたる健康・体力の維持増進と、仲間づくりにつながるよう、関係団体等と連携し、スポーツ振興の実践を強化します。

地域のだれもが年齢を問わず興味や技術レベルに応じたスポーツ・レクリエーション活動ができる総合型地域スポーツクラブと行政の協働により、地域スポーツを推進します。

だれもが気軽にスポーツに親しむことができるスポーツ・レクリエーション活動を振興します。

#### 生涯スポーツの推進

- ①健康づくり、体力づくり、仲間づくりとしてのスポーツ振興の実践強化
- ②総合型地域スポーツクラブとの協働による地域スポーツの推進
- ③スポーツ・レクリエーション活動の振興

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①健康づくり、体力づくり、仲間づくりとしてのスポーツ振興の実践強化

生涯にわたって健康・体力の維持増進を図るには、継続的な運動・スポーツが有効な手

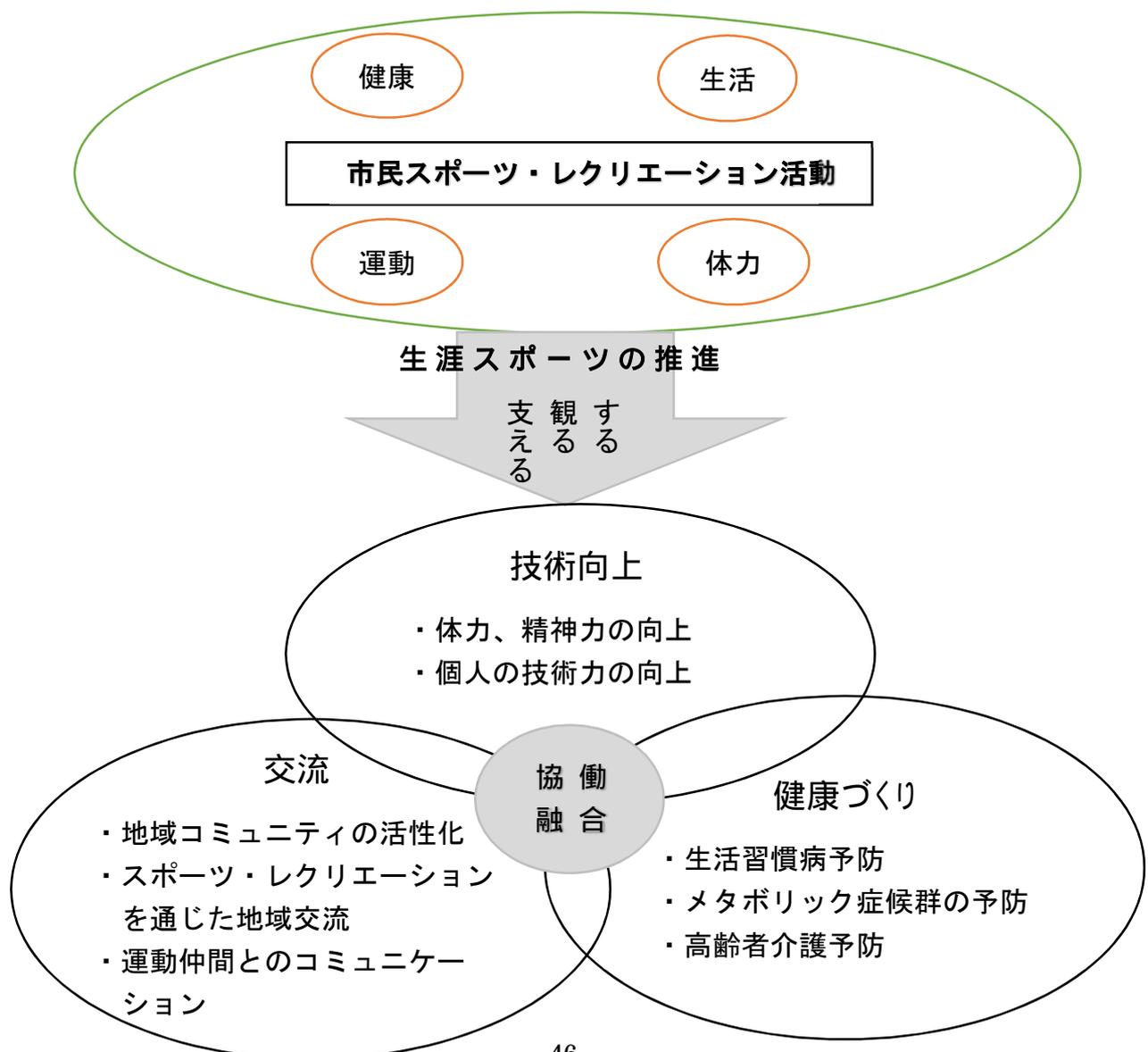
段であり、仲間づくりにもつながることから、行政の健康増進部局やスポーツ推進委員・関係団体などと連携し、スポーツ振興の実践を強化します。

## ②総合型地域スポーツクラブとの協働による地域スポーツの推進

地域のスポーツクラブを推進するためには、地域のだれもが年齢を問わず興味や技術レベルに応じたスポーツ・レクリエーション活動ができる地域スポーツの積極的な取り組みを行政と市民の協働により進めます。

## ③スポーツ・レクリエーション活動の振興

日頃からスポーツに親しんでいる市民はもとより、スポーツに馴染みのない市民も対象として、子どもから高齢者まで、また、障がいの有無にかかわらずだれもが、それぞれのニーズに合ったスポーツに気軽に親しむことができ、スポーツやレクリエーション活動を始めきっかけとなるよう、魅力のあるイベント等の開催など、市民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動を支援します。



## (5) 学習成果の評価制度の推進

### 〈 現状と課題 〉

市民が幸せを感じる社会を実現していくためには、地域についてみんなで考え、地域の課題を学び、一人ひとりが、まずできることから参加し、力を合わせて地域をより良くしていく活動に取り組んでいく必要があります。

自らが学習するだけでなく、学習して得られた成果を活かして、身近な地域で活動したり、地域での活動を通して積極的に社会に関わりたいという人が増えています。こうした思いを支援することは、市民同士の新たな出会いの場となるだけでなく、市民の参加・参画による地域の活性化や地域課題の解決といった「新しい公共」の促進につながります。

そのためには、学習機会を充実させる一方で、学習した成果が評価され、自己実現がはかられ、その学習成果を地域に還元できる学びの仕組みを、市民と行政が協働してつくっていくことが必要です。

また、ボランティアバンクをはじめとした人材バンクの活用について、登録しても活躍の場がないといった現状もあることから、これらの課題解決に向けた取り組みが重要です。

### 〈 基本的方向 〉

学習者の学習意欲が高められるよう、学習成果を評価する制度の創設とその活用に取り組めます。

市民が学習成果を発表できる場や機会の充実を図り、循環型生涯学習社会の基礎となる仕組みづくりを進めます。

生涯学習に取り組む市民が、様々な分野で、地域の活性化や地域課題の解決などに活躍できるよう、地域社会に学習成果を還元できる機会の充実に取り組めます。

#### 学習成果の評価制度の推進

- ①学習成果を評価する制度の創出と活用の推進
- ②学習活動の成果を発表できる機会の充実
- ③学習成果を地域社会に還元する機会の充実

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①学習成果を評価する制度の創出と活用の推進

市民が学習した一つの成果として、各種学級・講座等における認定書や修了証の発行など、学習成果を評価する制度の創設を進めます。

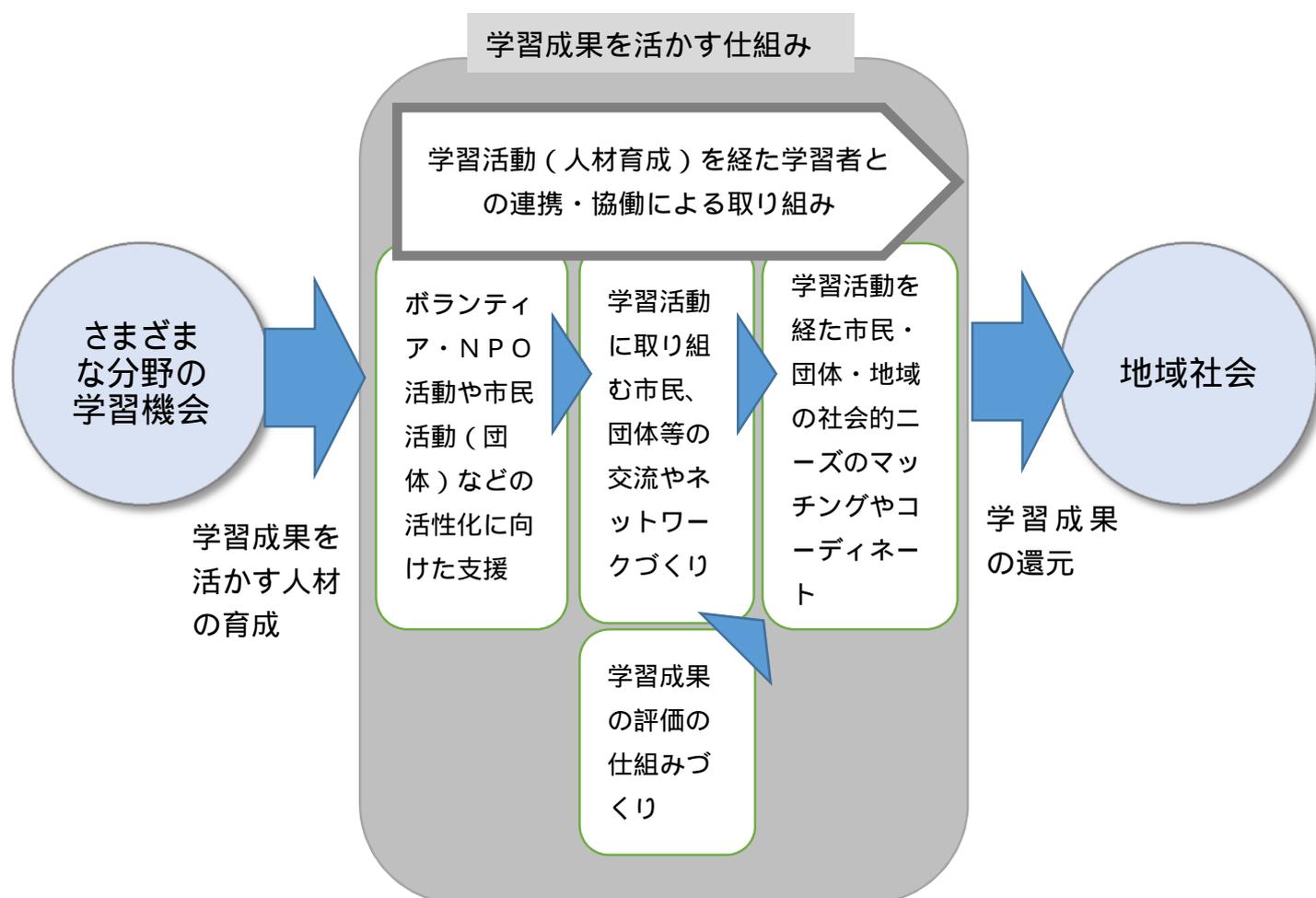
さらに、学習者の学習意欲が高められ次のステップにつながるよう、評価制度の活用に取り組めます。

## ②学習活動の成果を発表できる機会の充実

市民が学習成果を発表できる場や機会の充実を図り、個人の学習成果を地域社会における様々な教育活動に活かし、社会全体の教育力の向上をめざす循環型生涯学習社会の基礎となる仕組みづくりを進めます。

## ③学習成果を地域社会に還元する機会の充実

市民が学習によって得られた知識・成果を地域に還元することができる機会の充実に取り組めます。



## 2 子どもと大人が育ちあう、子育てしやすい環境づくり

### (1) 家庭の教育力の向上

#### 〈 現状と課題 〉

家庭は、常に子どもの心の拠り所となるものです。子どもは家庭生活の中で「生きる力」を身につけるとともに、人格を形成していきます。一方で、子どもを育てることを通して、親も子どもと一緒に成長していくといわれます。

しかし、核家族化や少子化の進行、地域のつながりの希薄化など、社会環境が変化する中、家族の教育力の低下が指摘されています。親が子どもに対して行なう家庭教育は、教育の原点といえます。親自身が子育てについて学ぶことが大切です。そして、子育てについて自信を持って行動する必要があります。

年少者人口が多いまちである本市において、家庭教育の支援が今まで以上に重要となっています。また、児童虐待や不登校といった、子どもをめぐる様々な問題が増加していく傾向にあることから、家庭の教育力の向上に向けた取り組みが大きな課題となっています。

#### 〈 基本的方向 〉

親自身が子育てについて学ぶことが大切です。そして、子育てについて自信をもって行動する必要があります。

子どもの教育や、しつけなどに関する親の不安や悩みを解消し、自信をもって家庭教育ができるよう、親の「学び」や「育ち」を積極的に支援していくため、親同士の学びのネットワークの構築に取り組みます。

また、健康学習（食育）についての機会の提供に努めます。

#### 家庭の教育力の向上

- ①親同士の学びのネットワークの構築
- ②健康学習（食育）についての機会提供

#### 〈 具体的取組み内容 〉

##### ①親同士の学びのネットワークの構築

親同士の子育てについてのネットワークがあることは、不安や悩みを持つ親にとって、参考となり、安心感につながります。そこで、本市の家庭教育学級を基盤として、親同士の学びのネットワーク構築に向けて取り組みます。

## ②健康学習（食育）についての機会提供

子どもも大人も主体的な健康づくりを推進するためには、健康に関する正しい知識を学ぶ機会づくりが必要です。そのため、地域での食育を取り入れた健康づくりの学習や食育ボランティア等指導者の育成、支援に努めます。

## （２）子育て相談活動の充実

### 〈 現状と課題 〉

全国的に少子化が進む中で、香芝市は非常に若いまちであり、子どもたちが多いまちであることから、子育て支援政策はますます重要となっています。生涯学習の面においても、子どもが地域で育つという観点は重要です。

本市では、子育て支援センターや交流センターで、多くの子育て支援活動が展開されていますが、これら子育て支援活動の認知度や実際の利用はまだまだ少ない状況です。今後とも子育て支援の一層の充実が求められます。

### 〈 基本的方向 〉

福祉部門と連携した子育て支援の体制づくりに取り組みます。子育て支援センターなどとの連携を強化し、地域における子育て支援のサポート体制の構築に向けて取り組みます。また、子育てに関する情報提供を推進します。

#### 子育て相談活動の充実

- ①子育て支援体制の整備
- ②地域における子育て支援のサポート体制の構築
- ③子育てに関する情報提供の推進

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①子育て支援体制の整備

子育てに関する悩みや不安を共有でき、親同士や親子がふれあうことができる交流の場

を増やししながら、福祉部門と連携した子育て支援の体制づくりに取り組みます。  
また、乳幼児健診等を通じて子育て支援を図ります。

## ②地域における子育て支援のサポート体制の構築

既設の子育て支援センターなどとの連携を強化し、公立幼稚園・保育所や私立幼稚園・保育園の未就園児交流事業を基盤としたサポート体制の構築に向けて取り組みます。また、新たに自治会と民生児童委員による「きゅうびいクラブ」の取り組みが広がりつつあることから、これらの活動との連携を図ります。

## ③子育てに関する情報提供の推進

子育て支援事業などの情報について、情報機器や紙媒体などの有効適切な活用に努め、情報を必要としている人に届くよう、子育て相談窓口の充実や子育てに関するわかりやすい情報提供を推進します。

## (3) 家庭・学校・地域の連携強化

### 〈 現状と課題 〉

核家族化、少子化、地域の人間関係の希薄化が進む中、子どもたちを取り巻く状況も大きく変化し、様々な問題が生じています。最近の子どもたちは、家の外で遊ぶことや集団で遊ぶ機会が少なくなっていることなどから、地域の中で多様な体験を通して、思いやりや助け合いの精神を育て、「生きる力」を育むことが重要になっています。

このため「子どもの居場所づくり」など、地域で子どもを育むための環境づくりや地域の教育力の活性化が求められています。本市においては、各学校で「学校・地域パートナーシップ事業」の取り組みを進めていますが、地域の人材を活用し地域との連携・融合を重視した取り組みがますます必要となっています。

また、子どもが言葉を学び、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで、子どもの読書活動は、欠くことのできないものです。この子どもの読書の推進にも家庭・学校・地域の連携が重要となっています。

## 〈 基本的方向 〉

色々な体験活動を通して「生きる力」を育む、子ども体験活動を推進します。

家庭、学校、地域と行政が一体となって青少年の健全育成に取り組んでいくために、青少年健全育成に向けた支援活動を促進します。

また、家庭・学校・地域・行政が連携し、子どもの読書活動の推進を図ります。

### 家庭・学校・地域の連携強化

- ①子ども体験活動の推進
- ②青少年健全育成に向けた支援活動の促進
- ③子ども読書活動の推進

## 〈 具体的取組み内容 〉

### ①子ども体験活動の推進

様々な体験を通して、思いやりや、助け合いの精神を育てるため、色々な体験活動（自然体験、社会体験、生活体験）へ参加する機会を増やすなど、子ども体験活動を推進します。また、各地域で「地域福祉推進委員」が新たに活動されていることから、これらの活動を通して、子どもたちの様々な体験活動につながるよう連携を図ります。

### ②青少年健全育成に向けた支援活動の促進

行政だけではなく、地域住民が中心となって学校との連携を強め、地域での青少年健全育成活動を進める組織づくりを支援します。

また、学校週5日制が定着している中、学校教育法施行令の改正により「土曜授業」が見直されました。今後、本市において実施方針を検討していく際には、地域とともに学ぶ「地域学習」を取り入れ、より一体的な青少年健全育成に向けた支援活動につながるよう努めます。

### ③子ども読書活動の推進

家庭や学校、地域、行政が連携し、子どもを取り巻く読書環境の充実、読書活動の推進を図ります。

## 学びを広める環境づくり

### 3 学びの情報をだれもが得られる環境づくり

#### (1) 情報収集・発信システムの構築

##### 〈 現状と課題 〉

生涯学習を広めるためには、市民が学び、学んだ成果を活かすために必要な情報を、必要な時に得られる環境づくりが必要です。

生涯学習に関する情報は、現在は施設単位での情報となっているなど、学習機会や学習した成果の活用情報が、市民にとってわかりにくい状況となっています。

今後は、市民が学習したい、学んだ成果を活かしたいと思った時に、必要な情報を得られるよう、効果的な情報発信と、インターネットや定期的な生涯学習情報誌、リーフレット、チラシなど各種メディアを活用したわかりやすい情報提供が求められます。

##### 〈 基本的方向 〉

市民が、生涯学習に関する情報を、必要なときに入手できる環境づくりを進めます。

このため、生涯学習関連情報の一元的な収集・提供が行なえる体制をめざします。また、生涯学習ガイド等、様々な手法を用いた情報発信と、各種メディアを活用したわかりやすい情報提供を推進します。

#### 情報収集・発信システムの構築

- ①生涯学習関連情報の収集と提供体制の確立
- ②生涯学習ガイド等情報発信の推進
- ③各種メディアを活用した情報提供の推進

##### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①生涯学習関連情報の収集と提供体制の確立

生涯学習に関するどの施設の情報も一元的に収集・提供が行なえるような管理体制をめざします。さらに、市民がより幅広く学習機会を選択できるように、民間教育事業者等が開設している各種講座などについても情報を提供できるよう努めます。

#### ②生涯学習ガイド等情報発信の推進

市や大学、民間事業者等が開催する各種講座やイベントなど生涯学習情報のガイドづくりに取り組みます。また、インターネットで生涯学習情報を検索したり、掲載できるサイ

トの整備など、様々な手法を用いて情報発信を推進します。

### ③各種メディアを活用した情報提供の推進

インターネットをはじめとする多様なメディアを活用し、市が持つ生涯学習に関する情報を市民が入手しやすい方法で提供します。また、地域における生涯学習の取り組みや学習機会の情報を集約し、情報提供の推進を図ります。

## (2) 生涯学習の相談窓口の体制づくり

### 〈 現状と課題 〉

今後の生涯学習の取組みで重要度が高いものとして、市民アンケートでは「生涯学習に関する相談体制の推進」との回答が多く、生涯学習に関する相談への市民のニーズは高いといえます。しかし、相談窓口の体制は整っていないのが現状です。

また、社会教育法では社会教育主事の職務は「社会教育活動を行うために……助言と指導を与える。」とうたわれています。本市においては、社会教育主事の資格を持つ職員も複数いますが、その専門性を発揮できる組織体制になっていないこともあり、社会教育に関する専門的な相談を受ける職員の配置が課題となっています。

社会情勢の変化等により、生涯学習へのニーズは多様化、高度化、専門化しています。このような市民のニーズに応えられるよう、生涯学習の相談窓口の体制づくりが必要です。

### 〈 基本的方向 〉

学習情報や学習グループの紹介、学習方法など多種多様な相談に対応できるよう、総合的な学習相談窓口を設置していきます。

社会教育に関する専門的な助言や指導を行う専門職としての社会教育主事の効果的な配置に努めます。

多様化、高度化、専門化する個人の学習ニーズに応えるために、学習者を結ぶコーディネーターや学習活動を支援するサポーターの育成に取り組みます。

## 生涯学習の相談窓口の体制づくり

- ①生涯学習活動に関する総合相談窓口の設置
- ②専門職としての社会教育主事の配置
- ③生涯学習のコーディネーターやサポーターの育成

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①生涯学習活動に関する総合相談窓口の設置

市民の学習意欲を具体的な生涯学習活動に結びつけられるよう、学習情報や学習グループの紹介、学習方法など多種多様な相談に対応できる総合的な学習相談窓口を設置していきます。

#### ②専門職としての社会教育主事の配置

社会教育に関する専門的な助言や指導を行うことができるよう、社会教育主事の資格を有する者の有効活用等について、人事当局へ働きかけ、社会教育主事としての効果的な配置に努めます。

#### ③生涯学習のコーディネーターやサポーターの育成

社会教育委員をはじめ民間の有資格者などを活用した、学習者をむすぶコーディネーターの人材確保や学習活動を支援するサポーターを養成するための研修等に取り組みます。

### (3) 生涯学習に関わる普及啓発と意識の高揚

#### 〈 現状と課題 〉

現状では生涯学習活動によく参加する人と、全く参加しない人との間に大きな差が見られることから、幅広い市民が生涯学習に取り組む意識づけとなるような、生涯学習に関わる普及啓発が必要です。そして又、生涯学習の基盤となる人権や男女共同参画社会づくりなどの意識の高揚に努める必要があります。また、生涯学習に関わる様々な取り組みを通して、市民一人ひとりの人権が尊重され、だれもが互いに尊重しあい、協力し、支えあいながら責任も分かち合えるまちづくりをめざすことが重要です。

そのためには、紙媒体やホームページ掲載による生涯学習事業の情報発信のほか、生涯学習活動に参加してみたいくなるような、市民の意識を高める取り組みが求められます。

#### 〈 基本的方向 〉

生涯学習活動に参加するきっかけとなる総合的な普及・啓発事業の開催に努めます。また、行政各部署で行われている様々な事業と連携して、生涯学習を高揚するイベント等の開催に努めます。

生涯学習に関わる様々な機会において、人権の尊重と男女共同参画社会の実現に向けた意識の高揚を図ります。

#### 生涯学習に関わる普及啓発と意識の高揚

- ①生涯学習に関わる総合的な啓発事業の開催
- ②生涯学習を高揚するイベント等の開催
- ③人権意識の高揚
- ④男女共同参画社会に向けての意識の高揚

#### 〈 具体的取組み内容 〉

##### ①生涯学習に関わる総合的な啓発事業の開催

生涯学習活動に参加する総合的な普及・啓発事業として、講演や学習成果の実践発表、シンポジウムなどの開催に努めます。

##### ②生涯学習を高揚するイベント等の開催

生涯学習の意識を高揚していくことにつながるようなイベント等の企画について、市民が気軽に参加しやすいものとなるよう、内容の見直しのほか、新たなイベント等の実施に努めます。

### ③人権意識の高揚

市民がお互いに共生・共感しながら、人権尊重の理念を正しく理解することができるよう、学習機会の提供に努めるとともに、生涯学習に関わる様々な機会において、人権意識の高揚を図り、人権が尊重されるまちづくりを進めます。

### ④男女共同参画社会に向けての意識の高揚

だれもが性別にとらわれず、自らの意思によって個性と能力を發揮することができる男女共同参画社会の実現をめざし、市民一人ひとりのライフスタイルに合った学習機会の充実に努めるとともに、関係団体等と連携し意識の高揚に努めます。

## 4 地域みんなで学びあう（協育による）生涯学習のまちづくり

### （1）協働による地域活動の活性化

#### 〈 現状と課題 〉

生涯学習は、自らの資質や生活の向上などを目指すだけでなく、それを基盤として地域社会に参加し、活発に活動することで、よりよい人間関係をつくりあげ、すべての市民が住みよいまちを築いていくことに重要な役割を果たします。

市民の生涯学習活動が活発になっていく中、学習を通じて身につけた知識や技術を広く地域や社会の中で活かせる人を増やしていく必要があります。市民一人ひとりが自らを高め、問題意識をもって様々な角度からまちづくりに取り組むことによって、地域のコミュニティの活性化につなげていくことが求められます。

#### 〈 基本的方向 〉

地域型の生涯学習を推進していくために、地域づくり講座の開催など、学習成果を活かした地域づくりに向けた取り組みを進めます。

市民の視点に立った出前講座のメニュー充実と指導者の養成に取り組めます。

#### 協働による地域活動の活性化

- ①学習成果を活かした地域づくりの推進
- ②出前講座のメニュー充実と指導者の養成

#### 〈 具体的取組み内容 〉

##### ①学習成果を活かした地域づくりの推進

市民が学習した成果を活かしていく地域づくり講座の開催など、地域づくりへの推進に向けて取り組めます。

##### ②出前講座のメニュー充実と指導者の養成

自治会や各種団体などの要望に応じて、市職員が講師として出向く「出前講座」は、市民の「学習したい・知りたい」という視点に立った講座メニューを充実します。また、指導者としての職員の資質向上に努めます。

さらに、企業にも市民向けの講座の開催や学習会への講師派遣について働きかけていきます。

## (2) 地域コミュニティの充実

### 〈 現状と課題 〉

東日本大震災以降、特に地域の絆が重要視されています。本市では、これまで自治会組織を中心として各地域でコミュニティが育まれています。人口増加や急激な都市化の進展の中で、住民同士の交流や助け合いの関係が希薄になり、子育て、福祉、介護、安全など、地域課題の解決が難しくなっている状況が見られます。

地域の教育力を高めていくため、現在、「学校・地域パートナーシップ事業」を展開しています。これは、地域が学校運営に参画し、子どもたちの教育課題の解決に向けて取り組むものですが、これらのパイプ役としてコーディネーターが活躍しています。

今後は、生涯学習を通して地域の教育力を高め、地域の課題を地域で解決できる地域コミュニティの充実が求められます。

### 〈 基本的方向 〉

地域での安心安全をめざした防犯・防災活動を推進していくことで、地域の人づくりや絆づくりにつなげます。

各地域の特性を踏まえて、地域課題に対応して指導・助言ができ、地域に根ざした学習を支援できる人材育成に取り組みます。

#### 地域コミュニティの充実

- ①安心安全な防犯・防災活動の推進
- ②地域コーディネーターの育成

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ① 安心安全な防犯・防災活動の推進

自治会をはじめ、各自主防犯組織・自主防災組織と連携を図り、啓発活動、意見交換等を行うことにより、地域の絆づくりに結びつくよう、生涯学習の機会を有効に活用します。

#### ② 地域コーディネーターの育成

地域が学校運営に参画し、子どもたちの教育課題の解決に向けて取り組む「学校・地域パートナーシップ事業」のコーディネーターの仕組みを基盤として、今後、地域課題に対応して指導・助言ができる地域コーディネーターの育成に取り組みます。

### (3) 人材養成と活動支援の仕組みづくり

#### 〈 現状と課題 〉

本市では、社会教育関係団体26団体、また、生涯学習の拠点施設となっている中央公民館ではサークル団体として114団体があり、様々な領域で生涯学習活動が展開されています。しかし、会員の高齢化が進行し継続した活動が厳しくなっている団体も少なくありません。また、生涯学習・スポーツ活動をされている市民を対象としたリーダー研修会等は、不定期で実施しているものの充実したものとはいえません。

本市では平成17年度から生涯学習人材バンク制度を開始しましたが、その後、登録者は年々減少傾向となり、平成26年12月現在21名となっています。

市ボランティアセンターの登録団体数は平成25年度で92団体、個人で1,900人と毎年増加傾向となっています。ボランティアの養成講座も実施していますが、実践活動に結びつかない状況もみられます。

今後は、養成講座など人材養成とともに、活動できる場づくりに力を注ぐことが必要です。福祉、環境保全、国際協力など各分野の担当課や関係団体と連携し、ボランティア活動の場づくりを進める必要があります。また、現行の人材登録制度の一元的な活用について検討する必要があります。

#### 〈 基本的方向 〉

中・長期的な展望に立った生涯学習リーダー等の養成に取り組みます。また、社会教育関係団体や公民館のサークル団体等など、様々な領域で生涯学習活動を展開する団体等の育成支援に取り組みます。

現行の人材バンク制度の再編と広域連携を検討します。また、ボランティア活動の参画する仕組みづくりと育成支援に取り組みます。

#### 人材養成と活動支援の仕組みづくり

- ①生涯学習リーダー等の養成
- ②社会教育関係団体等の育成支援
- ③人材バンク制度の再編と広域連携の構築
- ④ボランティア活動に参画する仕組みづくりと育成支援

#### 〈 具体的取組み内容 〉

##### ①生涯学習リーダー等の養成

生涯学習・スポーツ活動をされている市民を対象としたリーダー研修会等について、中・長期的な展望に立った研修カリキュラムを作成し、生涯学習リーダーの養成に取り組みます。

## ②社会教育関係団体等の育成支援

社会教育関係団体や公民館のサークル団体などの生涯学習活動が、様々な領域で展開されていますが、会員の高齢化が進行し継続した活動が厳しくなっている団体にも対応した、育成支援に取り組みます。

## ③人材バンク制度の再編と広域連携の構築

「生涯学習人材バンク制度」について、人材バンクの有効な活用が図られ、登録者の増加につながるよう登録制度の見直しを進めます。

また、人材バンクの登録者が活躍できるよう、近隣の自治体と連携を図るとともに、本市の「まちづくりパートナー」など現行の登録制度と連携した運用など、一元的な人材バンク制度につなげられるように取り組みます。

## ④ボランティア活動に参画する仕組みづくりと育成支援

市の各種イベント等において、ボランティア活動として参加できる企画を取り入れるなど、ボランティア活動の実践に結びつくよう、参画する仕組みづくりと育成支援に取り組みます。

## (4) NPO、民間団体等との協働による生涯学習の推進

### 〈 現状と課題 〉

生涯学習を推進していくには、行政と民間が主体となって相互に連携し、協力しあいながら学習機会の提供や活動の場づくりを進めることが重要です。

本市では、大阪樟蔭女子大学と協働して「市民公開講座」を開催しているほか、NPOと連携した子どもの見守り活動や、企業との協働による産業展の開催、「かしば未来塾」での若年経営者の人材育成の取り組みなどが行われています。

今後は、学習ニーズに対応し、多様な学習活動を総合的、体系的に推進するために、行政だけではなく、地域、NPO、企業、教育機関（大学等）とのネットワークづくりが必要です。また、広範な領域で行われる学習活動に対して、様々な立場から総合的に支援していく仕組みを構築することが求められます。

### 〈 基本的方向 〉

学習ニーズに対応するために、行政、地域、NPO、企業、教育機関（大学等）とのネットワークづくりを進めます。

NPO、企業などと連携し、生涯学習活動に関する具体的な方策について調査研究に取り組みます。

#### NPO、民間団体等との協働による生涯学習の推進

- ①NPO等とのネットワークの構築（地域事業への支援）
- ②NPO等との協働による調査研究

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①NPO等とのネットワークの構築（地域事業への支援）

学習ニーズに対応し多様な学習活動を総合的、体系的に推進するための、行政、地域、NPO、企業、教育機関（大学等）とのネットワークづくりを進めます。学習機会の提供にあたっては、行政と民間との役割分担を明確にし、市民にとって、気軽に利用しやすい学習環境づくりに努めます。また、地域で行なわれる事業を総合的に支援していくためのネットワークづくりに取り組みます。

#### ②NPO等との協働による調査研究

NPO、企業などと連携し、生涯学習活動に取り組むための具体的な方策について、検討を進める調査研究に取り組んでいきます。

## (5) 学校と地域の学びあう場づくり

### 〈 現状と課題 〉

学校は地域社会の一員として、積極的に社会に貢献していくことが求められます。地域社会に根ざした学校として、地域とともに発展していくような取り組みが必要です。

また、本市では、地域福祉を推進する取り組みが進められており、地域において様々なサロンが開催されるなど、生涯学習と強いつながりを持った施策が広がろうとしています。

今後は、教育、福祉、環境など、市民の身近な生活課題について、地域で学び、地域で考える地域型生涯学習の推進に向けて、学校と地域の学びあう場づくりが重要となります。

### 〈 基本的方向 〉

学校と地域福祉活動との連携により、体験を通じたボランティア教育の推進とともに、子どもから大人まで地域で学び・体験できる場の充実をめざします。

#### 学校と地域の学びあう場づくり

##### ①学校と地域福祉活動との連携

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①学校と地域福祉活動との連携

子どものころから、様々な体験を通して「思いやりの心」「ともに生きていく心」を育む、ボランティア教育の推進とともに、学校と地域との連携を図りながら、地域福祉活動を進めます。

学校と地域福祉活動との連携により、子どもから大人まで地域で学び・体験できる場の充実をめざします。

## 学びの体制づくり

### 5 市民と行政が進める生涯学習の体制づくり

#### (1) 生涯学習推進本部の充実

##### 〈 現状と課題 〉

総合的な生涯学習を推進していくためには、全庁的な組織による体制づくりが不可欠となりますが、第1次基本計画では設置にいたっていませんでした。

行政各分野における生涯学習を総合行政として、より一層推進していくためには、生涯学習推進本部の体制について整えていく必要があります。

##### 〈 基本的方向 〉

総合的な生涯学習を推進していくために、市長を本部長とした生涯学習の推進本部を設置し、全庁的な組織を活かした体制づくりに取り組みます。

#### 生涯学習推進本部の充実

##### ①生涯学習推進本部の設置と機能の充実

##### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①生涯学習推進本部の設置と機能の充実

市長を本部長とした生涯学習の推進本部を設置し、全庁的な組織による機能的な生涯学習の推進が図られるよう取り組みます。

## (2) 生涯学習推進担当の体制整備

### 〈 現状と課題 〉

生涯学習の領域は幅広く、行政の各分野に関わるものです。そのような行政に携わる職員一人ひとりの資質向上のためには、生涯学習に関する正しい理解と認識を深めることが必要です。

また、全庁的な生涯学習を進めるためには、各部局において、生涯学習の視点を持ちながら施策を推進することが求められます。

### 〈 基本的方向 〉

行政職員一人ひとりが、生涯学習に関する正しい理解と認識を深めるよう努めます。

また、各部局において生涯学習推進担当者を配置し、研修の充実を図ります。

#### 生涯学習推進担当の体制整備

- ①行政職員に対する生涯学習の理解促進
- ②生涯学習推進担当者の配置及び研修の充実

### 〈 具体的取組み内容 〉

#### ①行政職員に対する生涯学習の理解促進

職員一人ひとりが、生涯学習に関する正しい理解と認識を深め、日常の業務を進める上で常に問題意識をもって市民サービスに結びつくよう創意工夫して取り組むように努めます。

#### ②生涯学習推進担当者の配置及び研修の充実

全庁的な生涯学習を進めるため、各部局にリーダー的な推進担当者を指名し、リーダー研修会などの充実に取り組めます。

### (3) 生涯学習推進のための市民組織づくりと市民活動の支援

#### 〈 現状と課題 〉

本市では、社会教育関係団体・サークルをはじめ多様な主体により、様々な分野で生涯学習活動が展開されています。今後、さらに市民主体の自主的な生涯学習活動の展開を図るために、NPO、企業等とも連携しながら、新たな市民の参加を広げていくことが求められます。

また、平成25年度より、新たな公益的な市民活動を行っている団体や公益性のある事業を対象に「まちづくり提案活動支援事業」を実施しています。これは、文化、芸術、スポーツ等を通じた社会貢献活動について、団体等が提案し、採択されれば、事業の一部を市が補助する仕組みです。

このように、生涯学習に関連する各種事業・活動の支援を図り、生涯学習の推進母体となっている社会教育関係団体、NPO、企業等への支援を強化し、市民の自立的、主体的な学習活動を進める体制づくりが重要となっています。

#### 〈 基本的方向 〉

市民の自主的な生涯学習活動を、継続して展開できるよう支援を進め、生涯学習を推進する市民組織づくりをめざします。

また、市民の生涯学習活動の役割について啓発を推進します。

#### 生涯学習推進のための市民組織づくりと市民活動の支援

- ①市民組織づくりと活動の支援
- ②市民の生涯学習活動の役割について啓発の推進

#### 〈 具体的取組み内容 〉

##### ①市民組織づくりと活動の支援

文化、芸術、スポーツ等を通じて新たな公益的な市民活動を行っている団体や公益性のある事業を支援する「まちづくり提案活動支援事業」など、市民の自主的な活動の支援を進めます。また、これらの新たな取り組みを通して、生涯学習を推進する市民組織づくりを支援します。

##### ②市民の生涯学習活動の役割について啓発の推進

様々な機会提供の際に、市民が生涯学習活動を行う意義について啓発を行うなど、自主的、主体的な生涯学習が進められるよう積極的に取り組みます。

## 6 重点施策

社会の急激な変化により、それに対応した新しい知識や技能の習得などが求められます。このような市民の多様化・高度化した学習ニーズに的確に対応するため、だれでも、いつでも、どこでも、興味や必要に応じて学ぶことができる環境づくりが必要です。

また、少子化や核家族化、価値観やライフスタイルの変化、地域における人間関係の希薄化など、家族や地域を取り巻く環境が変化し、地域や社会全体で子どもの学びや育ちを支える機能が弱くなっていることが指摘されています。

全国的に少子化が進む中で、香芝市は非常に若いまちであり、子どもが多いまちであることから、子育て支援政策はますます重要となっています。生涯学習においても、子どもが地域で育つという観点は極めて重要です。また、今後の高齢化の進展という人口構造の変化を踏まえた取り組みも重要です。

そこで、本計画では、基本目標に掲げる具体的施策の中でも重要性の高い、①子どもと大人が育ちあう地域づくりの課題、②家庭教育の課題、③高齢社会に対応した課題への取り組みについて、重点施策として位置づけ、取り組みを進めます。

これら三つの課題に重点的に取り組むことにより、だれでも、いつでも、どこでも、興味や必要に応じて学ぶことができる環境づくりを進め、生涯学習に取り組む市民が、学習の成果を活かして活動することにより、地域や家庭の教育力の向上をはかる環境づくりを進めます。

### (1) 地域で学び、地域に学ぶ生涯学習の充実

#### 〈子どもと大人がともに育ちあう場の充実〉

生涯学習には、地域の様々な人が参加することで、地域住民の交流を深め、地域での人間関係が形成されるという側面があります。生涯学習を通して、市民が地域を知り、地域で学び、地域で育つ、まちづくりの推進につながっていきます。

人間関係の希薄化に伴う地域の教育力の低下や青少年が直面する問題の深刻化が指摘される中で、子どもたちの安全・安心な居場所づくりや青少年の社会活動・スポーツに親しむ機会の充実など、地域全体で子どもたちを守り育てていく環境づくりが重要となっています。また、地域の歴史や文化など「地域」に学ぶ場づくりを通して、子どもたちの豊かな心を育て、地域コミュニティを活性化し、子どもと大人がともに育ちあう環境が育まれていくことが期待できます。

#### 《重点的な取り組み内容》

- 子どもたちが学校内外の安全な居場所において、地域の様々な人びととともに、勉強やスポーツ・文化活動・交流活動などを行う「放課後子どもプラン」を促進し、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育つ環境づくりを進めます。
- 学校、家庭、地域が一体となって、子どもたちの「生きる力」を育み、社会のルール

を守る意識を育むための地域での取り組みを支援します。

## (2) 家庭の教育力の充実

### 〈「親の学び」の場の充実〉

核家族化、地域の人間関係の希薄化が進む中、家庭の教育力の低下が指摘されており、子どもをめぐっては、家庭での生活習慣や食生活の乱れ、いじめや不登校、文字・活字離れ、児童虐待などの様々な問題が発生しています。

「家庭教育はすべての教育の出発点」といわれますが、子育てについての不安や悩みを持ちながら孤立し、家庭でのしつけのあり方に悩むなど、家庭における子どもにとっての「先生」であるはずの親自身に関する問題が多様化しています。

親自身が、子どもにとってどうあるべきかを考え、子育てを既に終えた地域の人たちとの交流を通じて、子育ての責任やその楽しさを学ぶことにより、子どもの教育やしつけに関する悩みを解消し、自信を持って家庭教育ができるよう「親の学び」を積極的に支援していく必要があります。

また、子どもの生活リズムの改善や基本的な生活習慣の定着の重要性と、家庭の果たす役割を再認識するとともに、家庭における生活リズムの向上のための実践を促していくことが必要です。

#### 《重点的な取組み内容》

- 家庭教育や親の役割について学ぶ機会を提供することで、親の「学び」や「育ち」を支援します。
- 地域において、子育て支援活動を行う人の知識習得や資質向上のために、研修会や講座を開催し、家庭教育への支援の充実を図ります。
- 子育てを終えた中高年世代も含め、子育てサークル活動などで活躍している人を中心として、子育て支援に関わるネットワークを構築し、子育て中の親への支援に努めます。
- 放課後子ども教室と学童保育所との連携を図り、家庭のつながりを密にし、サポートしていくように努めます。

### (3) 高齢社会（幸齢社会）への対応

#### 〈生涯学習の充実〉

本市の高齢化率も2割を超えている状況であり、今後、着実に高齢化が進行していきます。これまでの高齢者施策は、福祉・医療等の「共助」（社会保険のような制度化された相互扶助）や「公助」（福祉事業や生活保護）など「支えられる高齢者」という捉え方が中心でしたが、今後は高齢者の豊かな知識や経験を社会的に評価し、社会参加を支援することが重要です。

いまや人生80年から100年と言われ、「支える高齢者」といった生涯現役志向の高齢者も増えています。

また、地域をもう一度みんなをよく知ろうという「地域学」という活動が各地で盛んになっています。高齢者が子どもとともに「地域の歴史」を学ぶなど、異世代の交流学习から、高齢者の生きがいつくりや社会参加へ広がっていくものと考えられます。

#### 《重点的な取組み内容》

- 高齢者が学校支援や子育て支援に活躍できる場の提供に努めます。
- 豊かな知識と経験のある高齢者と子どもたちが交流できる機会や場を広げるよう取り組みます。
- 高齢者が地域活動等に参加できるよう、人材バンクなどの制度について検討します。

# 第5章

## 基本計画推進に 向けて

# 1 基本計画の推進体制

## (1) 基本計画の推進体制

市民と行政が生涯学習を推進するため体制を確立し、その強化を図ります。

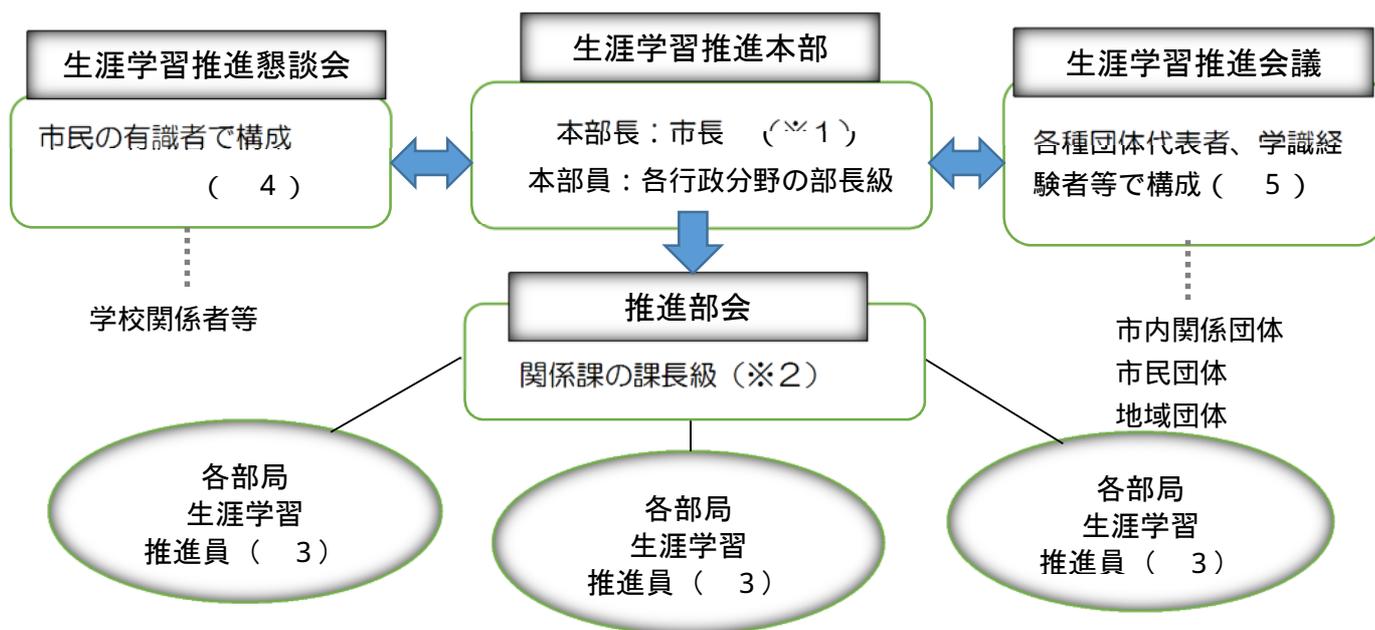
### ①全庁的な生涯学習推進体制

本市における生涯学習に係る総合的な施策を推進するため、市の推進本部を設置します。この推進本部は、全庁的な組織とすることが不可欠であることから、本部長を市長として、各行政分野の部長級を本部員として構成します。

また、情報収集や連絡調整を図るため、関係課の課長級で構成する推進部会を設置し、各部局には生涯学習の推進員を置き、推進部会の運営にあたることとします。

さらに、推進本部と別に外部の有識者、各種団体代表者等で構成される推進会議等を設置し、市の推進本部との連携を図っていくこととします。

その組織体系は次のとおりです。



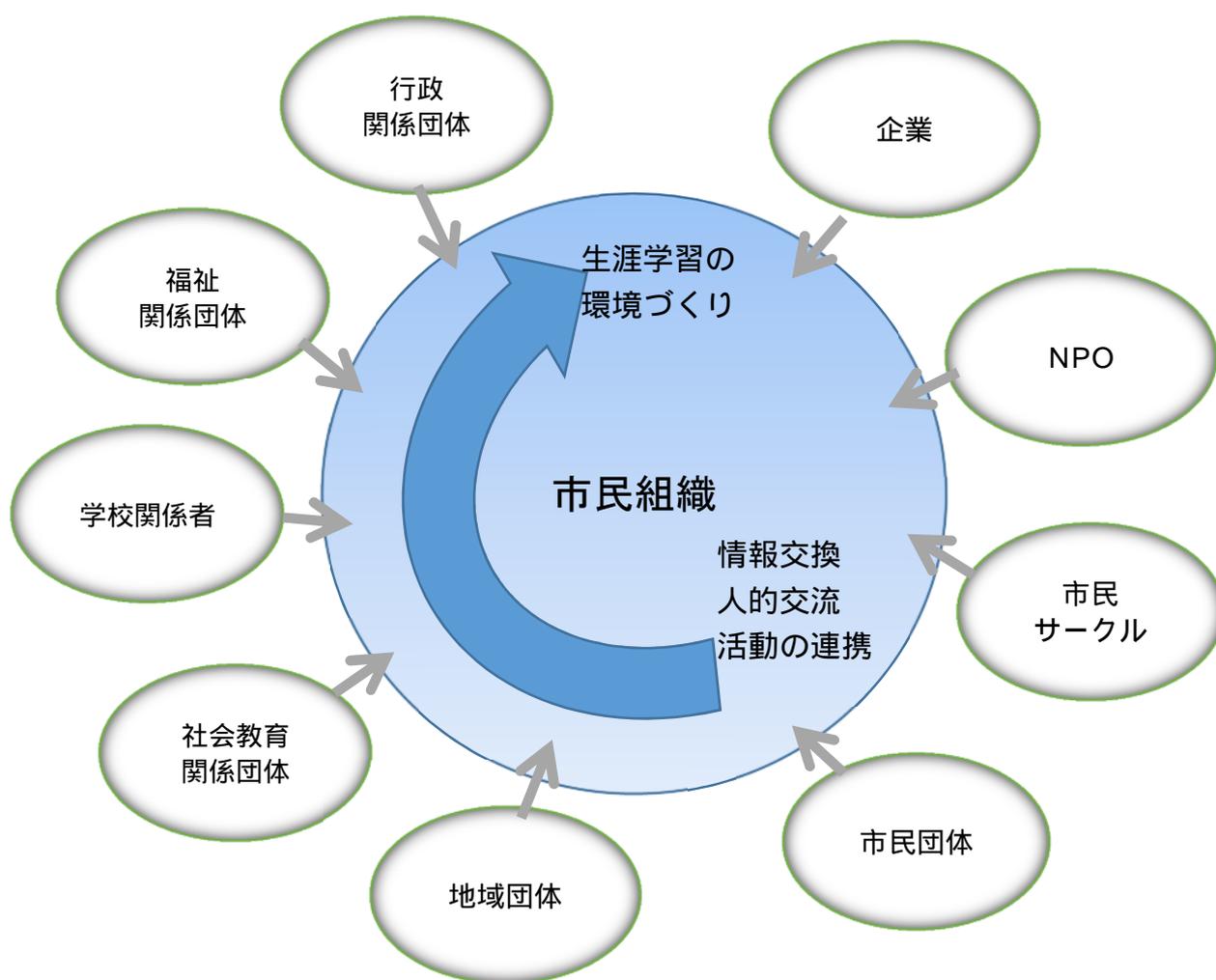
- ※1 市長、副市長、教育長、各部長で組織し、生涯学習推進のための基本方針を決定する。
- ※2 関係課の課長級で構成し、本部会議に付すべき事案の調整、及び本部長の命を受けた事務の処理を行う。
- ※3 各部局の生涯学習推進の推進員として指名を受けた者が、推進部会から指示等の受けた事柄等について情報提供を行う。
- ※4 市民の有識者で構成し、生涯学習の推進に関し、必要な事項を調査・審議し、その結果を市長に報告する。
- ※5 生涯学習推進にかかわる課題、懸案事項を協議し、生涯学習推進基本計画の実施計画を策定する

## ②市民組織の推進体制

生涯学習を推進する上で行政が果たすべき大きな役割は、市民一人ひとりが生涯学習に取り組むことができる環境づくりを進めることです。しかし、このような生涯学習の環境づくりを進めるためには、行政だけでは限界があり、市民が協働して取り組むことが必要です。

このため、様々な分野で生涯学習活動を展開している、社会教育関係団体・サークル、地域団体、NPO、企業等、幅広い市民が連携し、市民の自立的、主体的な学習活動を進めるための市民組織を設置していくよう努めます。

そのイメージを図で表すと次のようになります。



## (2) 基本計画進捗状況の評価

第2次基本計画の推進を図るために、次の評価指標を定め目標達成に努めることとします。また、必要に応じて進捗管理の透明性を図るため、市のホームページ等を活用し達成状況を公表していくこととします。

### ①一般市民アンケート調査からの指標による進捗管理

評価指標	実績値 (平成26年度)	方向性	根拠データ
生涯学習に関する活動状況： 過去1年間に生涯学習に関する「活動をしている」回答者の割合	34.5%		生涯学習に関する一般市民アンケート調査
スポーツ・レクリエーション活動状況： 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを「非常によくしている」、「まあまあ、よくしている」回答者の割合	22.3%		生涯学習に関する一般市民アンケート調査
地域の行事、地域活動等への参加状況： 「よく参加している」、「ある程度参加している」回答者の割合	46.4%		生涯学習に関する一般市民アンケート調査

※実績値は、平成26年度に実施した生涯学習に関するアンケートの結果数値を用いています。また、目標値を設定するべきですが当面、目標の方向性とし、数値の増減のみを目標とします。

②生涯学習関連施設・活動に関する指標による進捗管理

評価指標	実績値 (平成 25 年度)	目標値 (平成 32 年度)
市民公開講座参加者人数	439 人	500 人
市民図書館貸出冊数	528,194 冊	570,000 冊
中央公民館利用者数	83,743 人	94,000 人
二上山博物館観覧者数	8,168 人	11,000 人
博学連携教育参加児童・生徒数	434 人	1,800 人
放課後子ども教室数	6 教室	10 教室
スポーツ少年団員登録者数	708 人	800 人
体育施設利用者数	235,999 人	291,000 人
美術展覧会出品数	181 点	200 点
家庭教育学級生数	260 人	357 人
青少年野外活動センター利用者数	2,940 人	5,000 人
健全育成推進啓発大会参加者人数	150 人	240 人
子ども見守り夜間巡視件数	270 件	300 件
学校・幼稚園等子ども向き市民図書館貸出冊数	207,649 冊	220,000 冊
美術展覧会来場者数	828 人	900 人
公民館まつり参加者人数	5,400 人	6,000 人
子どもフェスティバル参加人数	1,526 人	2,500 人
刑法犯発生件数(*1)	478 件	450 件

\*目標値は、平成 26 年度「香芝市の教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書」の数値を用いています。

(\*1)の目標値は、「第4次香芝市総合計画」の(めざそう値)を用いています。

### (3) 基本計画の進行管理

基本計画の実施計画〈仮称〉アクションプランに設定した取り組みの指標等を目標とし、「計画(Plan)」、「実行(Do)」、「評価(Check)」、「改善(Action)」のPDCAサイクルにより基本計画の推進を図ります。

